

講義概要

SYLABUS 2025

《1 学年》



学校法人 有坂中央学園

CAN 中央動物看護専門学校

目 次

学園の沿革	-----	1
教育基本方針	-----	2
各種検定一覧	-----	3
履修科目一覧	-----	4
実務経験のある教員による授業科目一覧	-----	5
講義概要	-----	8
・ 動物看護学科	愛玩動物看護師専攻	
・ 動物飼育学科	動物園飼育員専攻	
	水族館飼育員専攻	
	牧場スタッフ専攻	
・ 動物美容学科	ペット美容トリマー専攻	

学園の沿革

1942 年	9 月	有坂学園『前橋服装女学院』創立。初代校長に有坂作太郎が就任する。
1952 年	7 月	北関東初の簿記会計の専門校として『有坂学園・前橋商業学校』に改称する。
1965 年	4 月	『有坂学園・前橋高等経理学校』に校名を改称する。
1974 年	9 月	第 2 代校長に有坂作太郎の長女である中島芳子が就任する。
1976 年	4 月	創立 35 周年を迎え、総合経理の専門学校として歩み出す。
1983 年	10 月	第 3 代校長に山中庄太郎(元県出納長)が就任する。
1985 年	3 月	新校舎完成。群馬の中央・頭脳都市新前橋に移転する。
1986 年	4 月	産能短大と提携。県下初のダブル・スクール制度を採用する。
1988 年	5 月	『中央情報経理専門学校』に校名を変更する。
	10 月	全国経理学校協会女子ソフトボール関東大会初出場初優勝。
1990 年	4 月	経理と情報教育を充実させるため本館・2 号館・3 号館に近代的な設備を完備する。
1991 年	7 月	産学一体の教育を目的に人事交流連絡会『人材育成フォーラム』を発足する。
1992 年	7 月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、電卓の部優勝。 簿記の部、珠算の部も上位入賞を果たす。
	9 月	創立 50 周年を迎える。
1997 年	4 月	情報処理検定にて全国 1 位の成績に贈られる『広中平祐賞』を受賞する。
1998 年	4 月	中央情報経理専門学校太田校(太田市)創立。
		中央工学院専門学校(前橋市)創立。
	7 月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、3 部門すべて 上位入賞し、全国大会出場を果たす。
1999 年	4 月	中央高等専門学院(前橋市)創立。
2000 年	1 月	早稲田コンピュータ専門学校(高崎市)がグループ校に加わる。
2001 年	4 月	高崎ビューティモード専門学校(高崎市)創立。
2001 年	11 月	ISO9001 を高等教育機関において全国初で認証を受ける。
2002 年	9 月	創立 60 周年を迎える。
2003 年	4 月	中央医療歯科専門学校太田校(太田市)創立。
2004 年	4 月	中央医療歯科専門学校に校名変更。
2004 年	7 月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、簿記の部優勝。 電卓の部、珠算の部準優勝。
	9 月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会全国大会において、簿記の部準優勝。 電卓の部 6 位。
2005 年	4 月	群馬法科ビジネス専門学校(前橋市)、高崎ペットワールド専門学校(高崎市)創立。
	12 月	全国専門学校ロボット競技会において全国優勝。ハードウェア部門優勝・3 位。
2006 年	4 月	中央工学院専門学校と中央情報経理専門学校のデジタルデザイン科が統合して、 中央工科デザイン専門学校と校名変更。
2006 年	7 月	全国経理教育協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、 簿記の部、電卓の部準優勝。
	9 月	全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部優勝。 電卓の部準優勝。簿記個人の部においても、1 位から 3 位まで入賞。
2007 年	9 月	全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部 2 年連続優勝。
	12 月	全国専門学校ロボット競技会においてハードウェア部門準優勝。
2009 年	3 月	中央工科デザイン専門学校(前橋市古市町)移転。
2011 年	4 月	中央農業グリーン専門学校(前橋市南町)創立。 群馬法科ビジネス専門学校桐生校(桐生市)創立。
2012 年	9 月	創立 70 周年を迎える。
2014 年	3 月	文部科学大臣認定 職業実践専門課程の認定を受ける。
2016 年	4 月	高崎ペットワールド専門学校(前橋市古市町)移転。 中央動物看護専門学校に校名変更
2017 年	4 月	中央医療歯科専門学校高崎校(高崎市)創立。
2018 年	4 月	中央情報経理専門学校高崎校を中央情報大学校に校名変更。 中央農業グリーン専門学校を中央農業大学校に校名変更。
2019 年	12 月	中央動物看護専門学校が群馬サファリワールドと職業教育連携。
2020 年	7 月	前橋東洋医学専門学校がグループ校(前橋市)に加わる。
2021 年	4 月	前橋東洋医学専門学校を中央スポーツ医療専門学校に校名変更。
2022 年	3 月	中央動物看護専門学校が北軽井沢地域と包括的職業教育連携。
2022 年	9 月	創立 80 周年を迎える。第四代理事長に中島慎太郎が就任する。
2024 年	2 月	全国選抜トリマー選手権大会においてミドル部門で準優勝。

中央動物看護専門学校 教育基本方針

○建学精神

『人と動物の絆』

○教育目標

『動物福祉の精神に立ち動物を慈しむ優しい心を持つ』

・人と動物のより良い関係づくりを目指し人と動物の両者に対して情熱を傾けられる人材

『失敗から学ぶ心と方法を知る』

・試行錯誤を通して、仕事を学ぶ「心」と「方法」を体得できる人材

『スペシャリストに必要な知識と技能を身に付ける』

・動物看護・動物飼育・動物美容の知識とスキルを学び、その専門性を広く応用できる人材

『豊かな人間性とビジネスマナーを兼ね備える』

・社会で活躍するために必要な豊かな人間性と飼い主とのより良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を兼ね備えた人材

○学園標語

『思いやりの心、感謝の心、奉仕の心』

○学科概要

●動物看護学科

・愛玩動物看護師専攻

動物病院などで、獣医師のパートナーとして活躍する動物看護師。その業務は獣医診療や検査・手術の補助、飼い主に対する健康管理指導など数多く、確かな知識と技術、責任感が求められる。本学科では基礎看護学をはじめ動物病院業務を実践的に学習する。

●動物飼育学科

・動物園飼育員専攻

絶滅の危機に瀕している野生動物を守る為の役割を担う動物園やサファリパークで動物の生態を管理する仕事である動物飼育員。飼育のプロによる指導で愛玩動物から野生動物まで幅広い動物種に対応できる知識や技術を磨き、即戦力となるよう実践的に学習する。

○基本方針

本校では、所定の年限の課程を通じて、高度な知識と技術を修得し、社会に貢献できる豊かな人間性を身につけることを最大の目標としている。

社会は、単に言われた通りに仕事ができる人間ではなく、与えられた環境の中で何を試すべきかを考え、その実現の為に自らの意思で行動できる明るく積極的な人間を求めている。このことは、人から教えてもらうのではなく、さまざまな体験を通じて事実をつかむ眼、本質を見抜く力を養い、そして、そこで生ずる問題を自分の問題としてとらえる力を身につけることにより学べるものである。実社会で最も必要としている問題解決能力とは、まさにそのことの実践でもある。

『体験から学ぶ』ことの大切さを理解し、自ら学び、自ら行動することを目指し、学生生活が有意義に送れるよう心がけることを学生に望む。

特に学習活動のみならず学校内外の諸活動、仕事体験など、幅広い「体験」から「学ぶ」ことによって、一人ひとりのアイデンティティを高めていくことを本校の真の狙いとしている。

○具体的方針

『やって・見て・考える』

様々な行事体験から問題解決の実践により「事実の本質」を体得する。また PDCA サイクルを理解し仕事に活かす。

・水族館飼育員専攻

水生動物の生態を学び、水族館で生活する動物の健康を守る水族館飼育員。水生動物はもちろん、それらの動物たちの生育環境を護るために必要な知識や技術を磨く。

・牧場スタッフ専攻

畜産動物の飼育方法を学ぶと同時にアニマルウェルフェアについて理解を深める。動物たちのストレスに配慮した飼育環境や接し方なども学ぶ。観光牧場等でパフォーマンスができるための技術も身につける。

●動物美容学科

・ペット美容トリマー専攻

シャンプーやカット技術、内面からの健康にアプローチをかけるエステやアロマなども学ぶ。お客様へのビジネスマナーも学び、様々な職場で活躍することができる知識、技術を身につける。

各 種 検 定 一 覧

種 目	主 催	試 験 時 期
動物看護分野		
愛玩動物看護師（国家資格）	動物看護師統一認定機構	毎年2月中旬日曜日
動物健康衛生管理検定	全国動物専門学校協会	毎年9月、1月（第3週）
ペット栄養管理士認定試験	日本ペット栄養学会	6月、9月、翌年1月 （2年次10月以降）
ペットBLS検定	日本ペットBLS防災学会	履修後随時
動物飼育分野		
動物飼育管理士	日本動物飼育協会	例年5月、12月実施
愛玩動物飼養管理士	日本愛玩動物協会	11月、翌年2月
ペットフード・ペットマナー検定	ペットフード協会	奇数月
生物分類技能検定	自然環境研究センター	8月1日（金）～9月29日（月）
潜水士（国家資格）	安全衛生技術試験協会	6月、7月、9月、12月、 翌年2月
グリーンセイバー	樹木・環境ネットワーク協会	8月
ビオトープ管理士	日本生態系協会	11月2日（日）
スクーバダイビング	PADI	8月、9月
乗馬ライセンス	全国乗馬倶楽部振興協会	8月
美容分野		
サロントリマー検定	全国動物専門学校協会	筆記：9月、1月 第3週 実技：随時
PEIA ゴールド	ペットエステティック国際協会	履修後
PEIA シルバー	ペットエステティック国際協会	履修後
PEIA ブロンズ	ペットエステティック国際協会	履修後
ビジネス分野		
社会人常識マナー検定	全国経理教育協会	6月、9月、翌年1月
電話応対技能検定	日本電信電話ユーザ協会	毎月第1水曜日

※試験時期は前年度実績に基づいて算出しておりますので、変更になる可能性もあります。

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物看護学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
動物行動学	吉田 卓史	大学を卒業後、動物園にて7年の実務経験。	11	30
動物関連法規	全代 俊枝	獣医師免許取得後、県庁職員（獣医公衆衛生関連業務）として36年の実務経験。	12	30
動物感染症学Ⅰ			14	30
動物臨床検査学			18	30
適正飼養指導論			20	30
動物内科看護学Ⅰ	岩崎 美香	専門学校卒業後、動物病院にて12年の実務経験。	15	30
動物外科看護学Ⅰ			16	30
動物内科看護学実習Ⅰ			21	60
動物外科看護学実習Ⅰ			22	30
愛玩動物学	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	19	60
動物飼育管理実習Ⅰ			24	60
グルーミング実習Ⅰ	赤坂 成美	グルーミングスクール卒業後、ドッグサロンにて7年間の実務経験。	25	240
グルーミング実習Ⅰ	田中 里恵	動物病院・ペットショップ・ドッグサロンにて7年間の実務経験。	25	240
グルーミング実習Ⅰ	伊井 由莉香	専門学校を卒業後、Dog Salon Hyggeを開業。現在もトリマーとして活躍。	25	240
グルーミング実習Ⅰ	青木 恋雪	専門学校を卒業後、ドッグサロン・ペットショップにてトリマーとして10年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	25	240
しつけトレーニング実習Ⅰ	川端 千賀子	ドッグトレーニングインストラクターとして25年間の実務経験。現在も活躍。	26	30
しつけトレーニング実習Ⅱ			27	30

※記載は2025年度のための科目とする

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物飼育学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
動物飼育学 家畜飼育学 飼育総合演習Ⅰ	新井 さき	専門学校を卒業後、動物園・乗馬クラブにて12年間の実務経験。	30	60
			32	60
			41	120
愛玩動物飼養管理士学	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	33	60
生態学 動物飼育管理実習	吉田 卓史	大学を卒業後、動物園7年間・生物調査3年間の実務経験	34	60
			40	60
動物解剖生理学	杢代 俊枝	獣医師免許取得後、県庁職員（獣医公衆衛生関連業務）として36年の実務経験。	35	60
しつけトレーニング実習Ⅰ	川端 千賀子	ドッグトレーニングインストラクターとして25年間の実務経験。現在も活躍。	36	30
しつけトレーニング実習Ⅱ			37	30
野生動物管理学	坂庭 浩之	獣医師免許取得後、県職員（食品衛生、動物愛護、野生動物研究）として35年の実務経験。	38	60

※記載は2025年度のための科目とする

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物美容学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
ペットエステ学Ⅰ	赤坂 成美	グルーミングスクール卒業後、ドッグサロンにて7年間の実務経験。	47	120
ペットエステ学Ⅱ			48	60
ペット美容学Ⅰ			49	30
ペット美容学Ⅱ			50	30
グルーミング実習Ⅰ			53	240
グルーミング実習Ⅱ			54	240
ペットエステ学Ⅰ	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	47	120
ペットエステ学Ⅱ			48	60
愛玩動物飼養管理士学			51	60
エキゾチックアニマル学			52	30
動物飼育管理実習Ⅰ			55	60
グルーミング実習Ⅰ	田中 里恵	動物病院・ペットショップ・ペットサロンにてトリマーとして7年間の実務経験。	53	240
グルーミング実習Ⅱ			54	240
グルーミング実習Ⅰ	青木 恋雪	専門学校を卒業後、ドッグサロン・ペットショップにてトリマーとして10年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	53	240
グルーミング実習Ⅱ			54	240
グルーミング実習Ⅰ	伊井 由莉香	専門学校を卒業後、専門学校講師を務める。その後、Dog Salon Hyggeを開業。現在もトリマーとして活躍。	53	240
グルーミング実習Ⅱ			54	240
しつけトレーニング実習Ⅰ	川端 千賀子	ドッグトレーニングインストラクターとして25年間の実務経験。現在も活躍。	56	30
しつけトレーニング実習Ⅱ			57	30

※記載は2025年度のための科目とする

講義概要

科目名	動物形態機能学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	120時間	年間取得単位数	4単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 里海	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物の生命維持のしくみを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践をみにつける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～4回目	生命のすがた	体を形づくる基本物質、細胞のしくみと働き、遺伝情報、各組織の働き、器官の成り立ちと維持
第5～8回目	血液と造血器①	血球成分と血漿成分、赤血球の構造と機能
第9～12回目	血液と造血器②	白血球の構造と機能、血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解
第13～16回目	血液循環とその調節①	循環器系の概要、心臓のしくみと働き、心電図
第17～20回目	血液循環とその調節②	血管のしくみと働き、血液循環
第21～24回目	生体の防御機構	生体を守る防御機構、自然免疫、獲得免疫
第25～28回目	脳と神経①	脳と各神経系の役割、興奮抑制シナプス
第29～32回目	脳と神経②	神経伝達物質、脳の構成要素、脳神経、脊髄と脊髄神経、自律神経系、行動の神経調節
第33～36回目	感覚と情報伝達①	各感覚系の働き(体性感覚、嗅覚、味覚)
第37～40回目	感覚と情報伝達②	各感覚系の働き(聴覚と平衡感覚、視覚)
第41～44回目	からだの支持と運動	体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分、骨格、骨格筋
第45～48回目	外皮系と体温調節	外皮、皮膚の付属器官、皮膚による体温調節
第49～52回目	呼吸とその調節	呼吸器の構造、呼吸
第53～56回目	内分泌とホルモン①	内分泌、各種ホルモン、内分泌系の構造と機能
第57～60回目	内分泌とホルモン②	視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能
第61～64回目	消化吸収と栄養代謝	歯の分類と数、舌の形と働き、咽頭と嚥下、食道、胃や腸のしくみと働き、唾液腺、膵臓、肝臓
第65～68回目	尿の生成と体液調節	肝臓、尿路、体液、電解質バランス

科目名	動物栄養学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の栄養についてを理解し、愛玩動物看護師国家資格の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	基礎栄養①	5大栄養素、過剰症、欠乏症について理解する
第3～4回目	基礎栄養②	犬・猫の食性、嗜好性、与えてはいけない食材について
第5～6回目	栄養要求量①	エネルギー評価法、ライフステージと栄養
第7～8回目	栄養要求量②	栄養状態の評価法について理解する
第9～10回目	フードと栄養指導①	ペットフードの種類、分類について理解し飼い主に説明できる
第11～12回目	フードと栄養指導②	ペットフード安全法、ペットフードのラベル表示を理解し飼い主に説明できる
第13～14回目	フードと栄養指導③	栄養状態の確認方法、理想体重について
第15～16回目	フードと栄養指導④	適正給与量について計算できる
第17～18回目	疾病と栄養①	肥満の弊害と減量プログラムの作成方法について理解する
第19～20回目	疾病と栄養②	慢性腎臓病の病態、食餌療法について
第21～22回目	疾病と栄養③	尿石症、心臓血管系疾患の病態と食餌療法
第23～24回目	疾病と栄養④	消化器疾患・肝疾患の病態と食餌療法
第25～26回目	疾病と栄養⑤	糖尿病・各種皮膚疾患・アレルギー疾患の病態と食餌療法
第27～28回目	疾病と栄養⑥	歯科疾患・がんの病態と食餌療法
第29～30回目	強制給餌と栄養法①	非経腸栄養法・経胃栄養について
第31～32回目	強制給餌と栄養法②	チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する
第33～34回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物行動学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の行動について学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物行動学の基本概念①	動物行動学の発展、行動学研究の4分野
第2回目	動物行動学の基本概念②	行動の進化と適応
第3回目	維持行動の意味と効果①	摂食行動、飲水行動
第4回目	維持行動の意味と効果②	排泄行動、身づくろい行動、護身行動
第5回目	社会行動①	群れの社会構造
第6回目	社会行動②	生殖行動
第7回目	社会行動③	コミュニケーション行動
第8回目	社会行動④	敵対行動と親和的行動
第9回目	行動発現のしくみ①	行動の動機づけと脳による行動の制御
第10回目	行動発現のしくみ②	行動の周期性
第11回目	行動の発達と学習①	行動の発達
第12回目	行動の発達と学習②	遺伝的要因と環境要因が行動発達に与える影響、馴化と感作
第13回目	行動の発達と学習③	古典的条件付けとオペラント条件付け
第14回目	問題行動と行動診療①	問題行動とは、問題行動診療とは
第15回目	問題行動と行動診療②	問題行動治療の実際の手順
第16回目	問題行動と行動診療③	問題行動診療で用いるその他の方法
第17回目	犬と猫における主な問題行動	攻撃行動

科目名	動物関連法規		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	柰代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物関連法規を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護関連法規①	法の体系、獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり
第2回目	動物看護関連法規②	動物に関連する法規と対象とする動物種について
第3回目	動物看護関連法規③	愛玩動物看護師法について
第4回目	動物看護関連法規④	獣医師法、獣医療法について
第5回目	動物看護関連法規⑤	公衆衛生行政法規①（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）について
第6回目	動物看護関連法規⑥	公衆衛生行政法規②（狂犬病予防法、と畜場法、食鳥事業の規制及び食鳥検査に関する法律、食品衛生法）
第7回目	動物看護関連法規⑦	薬事行政法規①（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律）について
第8回目	動物看護関連法規⑧	薬事行政法規②（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律、麻薬及び向精神薬取
第9回目	動物看護関連法規⑨	家畜伝染病予防法、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律、水産資源保護法について
第10回目	動物愛護・適正飼養関連法規①	動物の愛護及び管理に関する法律
第11回目	動物愛護・適正飼養関連法規②	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律
第12回目	動物愛護・適正飼養関連法規③	身体障害者補助犬法
第13回目	動物愛護・適正飼養関連法規④	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場等に関する法律
第14回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑤	外来生物法、種の保存法について
第15回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑥	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、ワシントン条約について
第16回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑦	ラムサール条約、自然公園法、文化財保護法について
第17回目	まとめ	期末試験対策

科目名	動物看護学概論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小 鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物看護学概論を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護の基本①	動物看護の目的、概念について理解する
第2回目	動物看護の基本②	獣医療と動物看護の歴史について理解する
第3回目	動物看護の基本③	獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する
第4回目	動物看護の基本④	動物にとっての健康、福祉、QOL を理解する
第5回目	動物看護の基本⑤	動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する
第6回目	愛玩動物看護師とは①	愛玩動物看護師の資格制度と資格認定機関について理解する
第7回目	愛玩動物看護師とは②	愛玩動物看護師の業務範囲について理解する
第8回目	愛玩動物看護師とは③	国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する
第9回目	愛玩動物看護師とは④	愛玩動物看護師の職能団体について理解する
第10回目	愛玩動物看護師とは⑤	愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織、団体について理解する
第11回目	動物看護の提供体制①	社会における動物病院の役割について理解する
第12回目	動物看護の提供体制②	一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する
第13回目	動物看護の提供体制③	インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する
第14回目	動物看護の提供体制④	診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する
第15回目	動物看護の提供体制⑤	職場における危険の防止、対処法について理解する
第16回目	動物看護の提供体制⑥	職場における労働安全衛生について理解する
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物感染症学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	柰代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防、治療など感染症対策、感染防御にかかわる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物感染について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	微生物の分類と特徴①	序論
第2回目	微生物の分類と特徴②	ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性
第3回目	微生物の分類と特徴③	ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性
第4回目	微生物の分類と特徴④	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第5回目	微生物の分類と特徴⑤	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第6回目	微生物の分類と特徴⑥	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第7回目	微生物の分類と特徴⑦	細菌の病原性（感染と発症）
第8回目	微生物の分類と特徴⑧	生体側の感染防御因子
第9回目	微生物の分類と特徴⑨	真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第10回目	微生物の分類と特徴⑩	真菌による人獣共通感染症、プリオンの形態、増殖、病原性について
第11回目	微生物検査①	微生物検査におけるバイオセーフティについて
第12回目	微生物検査②	標準予防策、病原体の運搬について
第13回目	微生物検査③	滅菌と消毒について
第14回目	微生物検査④	ウイルス検査法について
第15回目	微生物検査⑤	細菌検査法、真菌検査法について
第16回目	微生物検査⑥	プリオン病の検査法、薬剤感受性試験、PCR検査法について
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物内科看護学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	健康の保持・増進	健康診断の内容と目的
第3～4回目	診療補助に必要な技術①	診察における愛玩動物看護師の役割
第5～6回目	診療補助に必要な技術②	診察室の準備と衛生管理
第7～8回目	診療補助に必要な技術③	診察室の準備と衛生管理
第9～10回目	診療補助に必要な技術④	動物種ごとの適切な接し方
第11～12回目	診療補助に必要な技術⑤	保定の基本的な原理、目的、方法
第13～14回目	診療補助に必要な技術⑥	保定の基本的な原理、目的、方法
第15～16回目	診療補助に必要な技術⑦	体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色
第17～18回目	診療補助に必要な技術⑧	股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節
第19～20回目	検査・処置に必要な技術①	注射器の取扱い及び管理方法
第21～22回目	検査・処置に必要な技術②	注射器の取扱い及び管理方法
第23～24回目	検査・処置に必要な技術③	採血の目的と方法
第25～26回目	検査・処置に必要な技術④	採尿の目的と方法
第27～28回目	検査・処置に必要な技術⑤	穿刺と吸引
第29～30回目	検査・処置に必要な技術⑥	各種カテーテル挿入、酸素吸入
第31～32回目	検査・処置に必要な技術⑦	マイクロチップの挿入
第33～34回目	検査・処置に必要な技術⑧	学期末試験対策、復習

科目名	動物外科看護学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護師の役割、準備①	手術チームにおける役割、手指の消毒法
第2回目	動物看護師の役割、準備②	ガウン、グローブの装着法
第3回目	術前準備①	術前検査、手術室の準備
第4回目	術前準備②	動物の術前準備、麻酔の準備、手術時のポジショニング
第5回目	術前準備③	術野の消毒法、ドレープの装着
第6回目	手術器具①	一般的な器具の名称と使用法 (メス、剪刀)
第7回目	手術器具②	一般的な器具の名称と使用法 (鉗子、持針器)
第8回目	手術器具③	一般的な器具の名称と使用法 (歯科器具、その他)
第9回目	麻酔・鎮静処置①	麻酔、鎮静処置時における役割、適応とリスク
第10回目	麻酔・鎮静処置②	処置前検査、麻酔、鎮静、吸入麻酔に関わる手技
第11回目	麻酔・鎮静処置③	麻酔看視項目、麻酔記録の作成法
第12回目	術中補助・術後管理①	術中・術後の役割と必要な動物看護援助
第13回目	術中補助・術後管理②	直接補助の業務
第14回目	縫合材料と縫合法①	縫合糸の分類、特徴、サイズ
第15回目	縫合材料と縫合法②	縫合糸の代替品、縫合針
第16回目	縫合材料と縫合法③	縫合法
第17回目	まとめ	前期復習、学期末試験対策

科目名	動物臨床看護学総論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮒 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学総論を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程の展開 ①	動物看護過程の目的や意義、方法について理解する、動物看護過程の各ステップについて理解する
第2回目	動物看護過程の展開 ②	アセスメントについて理解する
第3回目	動物看護過程の展開 ③	事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する
第4回目	動物看護過程の展開 ④	問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する
第5回目	動物看護過程の展開 ⑤	動物看護過程の実施と評価について理解する
第6回目	診療記録①	診療録（カルテ）の作成方法について理解する、動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について
第7回目	診療記録②	実際にカルテを作成する
第8回目	動物看護業務①	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する
第9回目	動物看護業務②	ケアの標準化について理解する
第10回目	動物看護業務③	事故管理、防止システムについて理解する
第11回目	動物看護業務④	若齢動物看護の特徴について理解する
第12回目	動物看護業務⑤	高齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する
第13回目	動物看護業務⑥	家庭での継続看護を視野に入れた退院計画、指導について理解する
第14回目	ターミナルケア技術①	ターミナルケアの目的と意義について理解する
第15回目	ターミナルケア技術②	QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する
第16回目	ターミナルケア技術③	グリーフケアについて理解する、死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する
第17回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物臨床検査学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	全代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定器の正しい扱い方について理解する。検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	臨床検査学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	臨床検査の基礎①	検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）
第2回目	臨床検査の基礎②	検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）
第3回目	血液検査①	血漿、血清の分離法、全血球計算法(CBC)
第4回目	血液検査②	血漿、血清の分離法、全血球計算法(CBC)
第5回目	血液検査③	血液塗抹の作製及び観察法
第6回目	血液検査④	血液塗抹の作製及び観察法
第7回目	血液検査⑤	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査の目的と意義
第8回目	血液検査⑥	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査の目的と意義
第9回目	血液検査⑦	血液化学検査の目的と意義
第10回目	血液検査⑧	血液化学検査の目的と意義
第11回目	血液検査⑨	血液ガス検査の目的と意義
第12回目	血液検査⑩	免疫学的検査の目的と意義
第13回目	尿検査①	尿の性状検査
第14回目	尿検査②	尿沈渣
第15回目	糞便検査①	虫卵、原虫の検出法
第16回目	糞便検査②	細菌の観察法
第17回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	愛玩動物学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	歴史と品種①	犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れについて理解する
第3～4回目	歴史と品種②	猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れについて理解する
第5～6回目	歴史と品種③	代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する
第7～8回目	歴史と品種④	血統と血統書について理解する
第9～10回目	使役動物①	使役動物（犬、その他の動物）の歴史と福祉について理解する
第11～12回目	使役動物②	使役動物（犬、その他の動物）の歴史と福祉について理解する
第13～14回目	使役動物③	補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の歴史と現状について理解する
第15～16回目	使役動物④	その他の使役犬の種類と特徴及び現状について理解する
第17～18回目	動物の基本的な扱い①	動物を安全に散歩、運動、ふれあいさせることの意義について理解する
第19～20回目	動物の基本的な扱い②	動物を安全に散歩、運動、ふれあいさせることの意義について理解する
第21～22回目	動物の基本的な扱い③	基本的グルーミングの目的、方法について理解する
第23～24回目	動物の基本的な扱い④	適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する
第25～26回目	愛玩動物の飼養管理①	犬の適切な飼養管理方法について理解する
第27～28回目	愛玩動物の飼養管理②	犬の適切な飼養管理方法について理解する
第29～30回目	愛玩動物の飼養管理③	猫の適切な飼養管理方法について理解する
第31～32回目	愛玩動物の飼養管理④	愛玩鳥の適切な飼養管理方法について理解する
第33～34回目	愛玩動物の飼養管理⑤	代表的なエキゾチック動物について理解する

科目名	適正飼養指導論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	杵代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適正飼養指導論について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	愛玩動物の飼養①	愛玩動物適正飼養の目的、概念、現状を理解する
第3～4回目	愛玩動物の飼養②	愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する
第5～6回目	愛玩動物の飼養③	終末期の飼い主の心情と必要なケアを理解する
第7～8回目	愛玩動物の飼養④	グリーフケア、ペットロスについて理解する
第9～10回目	適正飼養の推進①	適正飼養の普及活動と動物取扱業者の適正飼養について理解する
第11～12回目	適正飼養の推進②	愛玩動物過剰繁殖の問題、対策について理解する
第13～14回目	適正飼養の推進③	適切な飼養方法としつけ、飼い主への指導事項と方法を理解する
第15～16回目	災害危機管理と支援①	災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる
第17～18回目	災害危機管理と支援②	愛玩動物と飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる
第19～20回目	災害危機管理と支援③	災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する
第21～22回目	動物愛護管理行政①	公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する
第23～24回目	動物愛護管理行政②	動物愛護週間の役割と実施状況について理解する
第25～26回目	動物愛護管理行政③	犬猫の引き取りと負傷動物等の収容、処分の状況を理解する
第27～28回目	動物愛護管理行政④	動物の事故内容と報告状況について理解する
第29～30回目	動物愛護管理行政⑤	動物愛護管理センターの活動と動物愛護推進員、協議会の役割について理解する
第31～32回目	動物愛護管理行政⑥	動物取扱責任者の選任条件と役割を理解する
第33～34回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物内科看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な動きを学ぶ実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	診察補助と身体検査①	犬の基本的な保定法
第3～4回目	診察補助と身体検査②	猫の基本的な保定法
第5～6回目	診察補助と身体検査③	身体検査とバイタルサイン評価（体温、心拍数）
第7～8回目	診察補助と身体検査④	身体検査とバイタルサイン評価（呼吸数、股動脈圧）
第9～10回目	輸液管理①	血管確保、事前準備
第11～12回目	輸液管理②	輸液ポンプの接続と輸液管理
第13～14回目	輸液管理③	シリンジポンプの接続、取り扱い
第15～16回目	輸液管理④	輸液量と輸液速度の計算
第17～18回目	輸血管理①	輸血とは、輸血用血液採取
第19～20回目	輸血管理②	全血の保存、輸血法、モニタリング
第21～22回目	注射器の取り扱い①	注射器の扱い方
第23～24回目	注射器の取り扱い②	薬剤の準備（アンプル）
第25～26回目	注射器の取り扱い③	薬剤の準備（バイアル）
第27～28回目	看護技術の実践と応用①	採血時の補助、薬剤の取り扱い
第29～30回目	看護技術の実践と応用②	投薬方法、外耳処置時の補助、エリザベスカラーの装着
第31～32回目	看護技術の実践と応用③	腹帯の装着、創傷管理
第33～34回目	看護技術の実践と応用④	包帯法、罨法、吸引法、まとめ

科目名	動物外科看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な動きを学ぶ実習になるが、講義の機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	手術関連業務①	リネン類等の種類と準備、ドレープのたたみ方
第2回目	手術関連業務②	手術衣のたたみ方
第3回目	手術関連業務③	ドレープを用いた手術器具の包み方
第4回目	手術器具①	手術器具の種類と目的、手術に使用する医療機器
第5回目	手術器具②	メス、メス刃の種類と交換方法
第6回目	手術器具③	剪刀・ピンセットの種類と使用目的、持ち方
第7回目	手術器具④	鉗子・持針器の種類と使用目的、持ち方
第8回目	手術器具⑤	縫合糸・縫合針の種類と特性
第9回目	手術器具⑥	滅菌に使用する器具、滅菌方法
第10回目	手術器具⑦	歯科処置の看護とケア、スケーリング準備
第11回目	手術器具⑧	スケーリングの手順
第12回目	術前術後の看護①	気管挿管の準備、挿管の手順・保定
第13回目	術前術後の看護②	術野の毛刈りと消毒、剃毛・洗浄・消毒の手順
第14回目	術前術後の看護③	手洗い、手術衣の着用
第15回目	術前術後の看護④	手袋の着用、滅菌・汚染の区別
第16回目	術前術後の看護⑤	術創の保護、術後のバイタルサインの評価
第17回目	術前術後の看護⑥	抜糸の補助、まとめ

科目名	動物看護総合実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	木村 樹璃愛(実習先)	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	診察室での飼い主対応や処置室での臨床症例を見学することで、実践に役立つ知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物病院）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	60時間習得しなければならない。		

授業計画
<p>授 業 計 画 書</p> <p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。 獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前訪問予約 ・ 持ち物・実習の内容等確認 2. 実習（補助実習） <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸注意事項確認 ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・ 保定 ・ 避妊・去勢手術の流れ ・ 血液検査 ・ 尿検査 ・ 便検査 など 3. 実習後指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習日誌まとめ提出 ・ お礼状作成・送付 ・ 実習を通して得た課題の確認 <p>※国家資格愛玩動物看護師受験要件として3年間で180時間の実習が必須となる。</p>

科目名	動物飼育管理実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物の世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布プリント		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	実習時には、動物を扱うにふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物飼育実習について	飼育管理内容、ふさわしい身だしなみ、飼育管理への向き合い方、飼育管理室内を知る
第3～4回目	仔犬	子犬と成犬の違い、扱い方、社会化
第5～6回目	飼育管理室 2 階	飼育管理室内の一通りの流れを知る
第7～8回目	飼育管理室 1 階	飼育管理室内の一通りの流れを知る
第9～10回目	掃除	掃除の方法と手法について知る
第11～12回目	犬・猫と遊ぶ	動物種ごとの違いを把握し、個体ごとの遊びを実施
第13～14回目	魚の管理	魚の水槽やアクアリウムについて学ぶ
第15～16回目	鳥・小動物の管理	鳥、小動物や管理について学ぶ
第17～18回目	動物のグルーミング①	犬・猫・のグルーミングを学ぶ
第19～20回目	動物のグルーミング②	ハリネズミのグルーミングを学ぶ
第21～22回目	備品管理	備品の管理表の制作と実装
第23～24回目	犬のおもちゃづくり	知育系の玩具の作成
第25～26回目	協働	協力して動くことの大切さ、チームプレイを学ぶ
第27～28回目	飼育管理の現状	飼育管理室の現状を把握し、改善策を提示する
第29～30回目	飼育管理とは	学校と動物を取り扱う店での管理の違いについて学ぶ

科目名	グルーミング実習Ⅰ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 田中 里恵 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 シャンプーコース(各部バリカン、部分カットを含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。また、全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	グルーミング基礎①	グルーミングの説明と道具について
第9～16回目	グルーミング基礎②	ウィッグでの道具の基礎練習
第17～24回目	グルーミング基礎③	ウィッグでの道具の基礎練習
第25～32回目	グルーミング基礎④	ウィッグでの道具の基礎練習
第33～40回目	グルーミング基礎⑤	ウィッグでの道具の基礎練習
第41～48回目	グルーミング①	実習犬でのお手入れ・ブラッシング実習
第49～56回目	グルーミング②	実習犬でのシャンプー実習
第56～64回目	グルーミング③	実習犬でのシャンプー実習
第65～72回目	グルーミング④	実習犬でのシャンプー実習
第73～80回目	グルーミング⑤	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第81～88回目	グルーミング⑥	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第89～96回目	グルーミング⑦	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第97～104回目	グルーミング⑧	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第105～112回目	グルーミング⑨	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第113～120回目	グルーミング⑩	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習

科目名	しつけトレーニング実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	川端 千賀子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭犬の正しい扱い方やトレーニングを通して、社会化の重要性と接し方について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬の行動観察、しつけの学習理論を学び、実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに関連するグッズ		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習に関する説明	実習前の準備や実習後の犬のケアについて
第2回目	犬の行動と学習理論	犬の行動観察、犬の学習方法について、褒めることについて学ぶ
第3回目	飼育環境に慣れさせる	新しい環境への順応の方法と実践
第4回目	人との生活に慣れさせる	仔犬との正しい接し方や、社会化トレーニングの重要性について、正しい犬の抱き方
第5回目	社会化トレーニング①	屋内で予想される身の回りの音や物に慣れさせる
第6回目	社会化トレーニング②	屋外で予想される身の回りの音や物に慣れさせる
第7回目	社会化トレーニング③	外出時や外出先で必要とされることへのトレーニングと対処方法
第8回目	問題行動①	問題行動とは、予防の重要性について知る
第9回目	問題行動②	問題行動の予防と対処に関するトレーニング
第10回目	問題行動③	問題行動の予防と対処に関するトレーニング
第11回目	身体ケアへのアプローチ方法	触られることに慣れさせるべき理由と、その重要性について
第12回目	グルーミングトレーニング①	足の周り、口周り、耳周りなどのケアのトレーニング
第13回目	グルーミングトレーニング②	足の周り、口周り、耳周りなどのケアのトレーニング
第14回目	まとめ①	総復習
第15回目	まとめ②	総復習

科目名	しつけトレーニング実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	川端 千賀子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭犬の正しい扱い方やトレーニングを通して、社会化の重要性と接し方について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬の行動観察、しつけの学習理論を学び、日々の管理で実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニング関連するグッズ		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	散歩トレーニング①	目的別の散歩の必要性とは、近くに居ることに慣れさせるためのトレーニング
第2回目	散歩トレーニング②	横に居るメリットとは、横に居ることに慣れさせるためのトレーニング
第3回目	散歩トレーニング③	屋外での犬の行動観察、注意点
第4回目	散歩トレーニング④	散歩での緩急と、指示の出し方、歩かせ方
第5回目	リラックス方法	リラックスをするということ、落ち着いている犬の状態を知る
第6回目	遊び①	犬との正しい遊び方、種類、必要なトレーニング
第7回目	遊び②	好きな遊びと個体の違いについて知る
第8回目	誘導の方法	正しい誘導の方法と、トレーニング方法
第9回目	基礎トレーニング①	座る、伏せる、立つの行動の方法
第10回目	基礎トレーニング②	言葉と行動の関連付けの方法
第11回目	基礎トレーニング③	言葉で試す
第12回目	基礎トレーニング④	様々な環境や状況で試してみる
第13回目	まとめ①	1年間のまとめ
第14回目	まとめ②	1年間のまとめ
第15回目	まとめ③	1年間のまとめ

科目名	検定対策Ⅰ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各種検定の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	愛玩動物飼養管理士①	課題問題1～20
第3～4回目	愛玩動物飼養管理士②	課題問題21～40
第5～6回目	愛玩動物飼養管理士③	課題問題41～60
第7～8回目	愛玩動物飼養管理士④	課題問題61～80
第9～10回目	愛玩動物飼養管理士⑤	課題問題81～100
第11～12回目	愛玩動物飼養管理士⑥	課題問題101～111
第13～14回目	愛玩動物飼養管理士⑦	課題問題112～141
第15～16回目	愛玩動物飼養管理士⑧	総合演習
第17～18回目	愛玩動物飼養管理士⑨	総合演習
第19～20回目	愛玩動物飼養管理士⑩	総合演習
第21～22回目	社会常識マナー①	社会常識①
第23～24回目	社会常識マナー②	社会常識②
第25～26回目	社会常識マナー③	コミュニケーション
第27～28回目	社会常識マナー④	ビジネスマナー
第29～30回目	社会常識マナー⑤	総合演習

科目名	就職実務 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	就職活動に向けて自己理解や協調性、心構えなどを学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	未来ノート、履歴書、その他就職活動準備に必要な教材		
成績評価の方法・基準	各種提出物の提出状況や内容等によって判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	自己紹介	自分のことを知ってもらう
第2回目	コミュニケーション	コミュニケーションゲームを通じて相手を知る
第3回目	未来ノート①	話し合いの意義
第4回目	未来ノート②	自己理解①「私の大切なもの探し」
第5回目	未来ノート③	自己理解②「私ってどんな人？」
第6回目	未来ノート④	自己理解③「自分を知る手がかり」
第7回目	未来ノート⑤	自己理解④「過去を振り返ろう」
第8回目	美文字練習①	字を丁寧に書くことを学ぶ
第9回目	美文字練習②	読みやすいきれいな字を書くことを学ぶ
第10回目	履歴書準備①	履歴書の購入、履歴書の書き方について
第11回目	履歴書準備②	履歴書で書く内容を決め、下書きする
第12回目	履歴書準備③	実際に履歴書を作成し、総合実習に備える
第13回目	履歴書準備④	実際に履歴書を作成し、総合実習に備える
第14回目	履歴書準備⑤	実際に履歴書を作成し、総合実習に備える
第15回目	履歴書準備⑥	実際に履歴書を作成し、総合実習に備える

科目名	動物飼育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	展示の目的や動物種ごとの様々な展示方法を学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、野生動物の生態や病気などについても学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種、目的ごとに異なる展示方法を学び、動物飼育管理士試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック動物園編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	展示①	総論、展示計画と実施、目的別展示、展示技法、哺乳類の展示、鳥類の展示、両生、爬虫類の展示
第3～4回目	展示②	昆虫類の展示、非生体資料の展示、展示と解説
第5～6回目	生態①	適切な飼育環境の実現、動物生態の理解
第7～8回目	生態②	進化に基づく諸現象の理解
第9～10回目	生理①	哺乳類の生理
第11～12回目	生理②	鳥類の生理
第13～14回目	病気①	総論、病気の予防、寄生虫症、人と動物の共通感染症
第15～16回目	病気②	麻酔、吸入麻酔、哺乳類の病気、鳥類の病気、爬虫類の病気、両生類の病気
第17～18回目	繁殖①	総論、サル類の繁殖、肉食獣の繁殖、草食獣の繁殖、有袋類の繁殖
第19～20回目	繁殖②	鳥類の繁殖、爬虫類の繁殖、両生類の繁殖、昆虫の繁殖
第21～22回目	餌料①	総論、鳥類、爬虫類、両生類の餌料
第23～24回目	餌料②	哺乳類の餌料
第25～26回目	教育①	総論、教育内容(自然、環境、情操、生体)、教育対象、ガイド活動、学習会
第27～28回目	教育②	こども動物園、自然観察会、出張授業、移動動物園、教材貸し出し、動物相談、実習
第29～30回目	総括	まとめ

科目名	海洋生物学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	海洋生物について学ぶ		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	様々な海洋生物の特性と人との関りを理解し、海洋生物学の知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック水族館編、配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	分類①	分類と分類学
第3～4回目	分類②	魚類、軟体動物、甲殻類の分類
第5～6回目	分類③	両生類、爬虫類の分類
第7～8回目	分類④	鳥類、哺乳類の分類
第9～10回目	生態①	魚類の生理、生態、繁殖
第11～12回目	生態②	魚類の生理、生態、繁殖
第13～14回目	生態③	魚類の生理、生態、繁殖
第15～16回目	生態④	海棲哺乳類の生理、生態、繁殖
第17～18回目	生態⑤	海棲哺乳類の生理、生態、繁殖
第19～20回目	生態⑥	海棲哺乳類の生理、生態、繁殖
第21～22回目	病気①	魚類、両生類、爬虫類の病気
第23～24回目	病気②	哺乳類、鳥類の病気
第25～26回目	病気③	飼育下での留意点
第27～28回目	総括①	まとめ
第29～30回目	総括②	まとめ

科目名	家畜飼育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	産業動物の種類、品種、飼育管理方法および畜産業など社会との関りについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	様々な動物の特性と人との関りを理解し、産業について学ぶ。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	日本の家畜・家禽 (Gakken)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	牛①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第3～4回目	牛②	飼養管理、牛に多い疾病
第5～6回目	馬①	馬の用途、解剖、生理
第7～8回目	馬②	馬に多い疾病
第9～10回目	豚①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第11～12回目	豚②	飼養管理、豚に多い疾病
第13～14回目	羊①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第15～16回目	羊②	飼養管理、羊に多い疾病
第17～18回目	山羊①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第19～20回目	山羊②	飼養管理、山羊に多い疾病
第21～22回目	鶏①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第23～24回目	鶏②	飼養管理、鶏に多い疾病
第25～26回目	畜産業	畜産業とは、日本の畜産、畜産業の地域による特徴、生産費の構成割合
第27～28回目	産業動物の福祉	産業動物福祉改善の歴史と定義、動物福祉の課題
第29～30回目	まとめ	総まとめ

科目名	愛玩動物飼養管理士学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペット（愛玩動物）の習性や正しい飼い方、動物関連法規（動物愛護管理法、ペットフード安全法など）、動物愛護精神などを、多くの人に広められる能力を身に付ける。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	修得した知識の実践力を身に付ける。また、愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	愛玩動物飼養管理士2級 第1巻・第2巻		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	愛玩動物飼養管理士 生命倫理・福祉	愛玩動物飼養管理士の意義や責任、協会の歴史について、動物の福祉とその歴史、倫理の重要性
第3～4回目	動物愛護・適正飼養関連法規①	法律を学ぶ意義、動物の愛護、動物関連法令
第5～6回目	動物愛護・適正飼養関連法規②	動物関連法令、適正飼養関連法規
第7～8回目	動物愛護・適正飼養関連法規③	行政、自然環境法令
第9～10回目	関連産業	ペット業界の過去と現在、関連法令
第11～12回目	愛玩動物学①	正しい関わり方と接し方、動物の健康維持、動物種別の身体的特徴
第13～14回目	愛玩動物学②	動物種別の身体的特徴、飼育管理と食性
第15～16回目	動物の体の仕組み	動物の体の仕組み、形態機能
第17～18回目	動物の行動としつけ①	学習理論
第19～20回目	動物の行動としつけ②	犬猫の発達過程、コミュニケーション方法、社会行動、しつけの理論
第21～22回目	関係学・生活環境学①	動物種別の飼育管理と食性、動物との関係性と歴史、動物への思想
第23～24回目	関係学・生活環境学②	動物への思想、動物を使用した介在活動、ペットの歴史と現在、共生住宅
第25～26回目	試験前まとめ	試験対策（スクーリング教材の見直しと課題報告問題）
第27～28回目	総まとめ	総合演習
第29～30回目	総まとめ	総合演習

科目名	生態学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	前期は植物を中心に遷移や植生について学び理解を深める。植物は動物と同様に適した生育環境があり、その構成要員は動物の生息と深く結びついている。これらは生物を知る上での基本的な知識を深める。後期は生態系とヒトとの関わり、保全について学ぶとともに日本の代表的な生物についてその特徴を学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	1. 生態系の基本的知識を深める。 2. 動物と植物などの関りについて理解する。 3. 自然界の仕組みと神秘に対する理解を深める。地球上の構成要員が深いかわりを持つことで生態系が成り立っていることを知る事で、専門職としての基本的知識を身につけ、それらを生き物の魅力や自然環境について正しく発信し、保護・保全に貢献できる力を養う。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果、授業態度、小テスト等により総合的に判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	自然の成り立ち	生物の環境、植物の遷移、植生の分布
第3～4回目	世界の気候と植生	世界の気候区分、
第5～6回目	生物地理区	世界の植物地理区、動物地理区
第7～8回目	生物地理区	日本の植物地理区、動物地理区
第9～10回目	生物進化と種分化	進化とは
第11～12回目	生物の生活資源	種間の様々な関係
第13～14回目	生物間相互作用	生態系の概念
第15～16回目	生態系	生態系の概念
第17～18回目	競争と共存	種間競争と種内競争、生態的地位など
第19～20回目	生活史の進化と多様性	生活史の進化
第21～22回目	ヒトと自然環境①	生態系サービス
第23～24回目	ヒトと自然環境②	環境保全
第25～26回目	日本の野生動物	哺乳類
第27～28回目	日本の野生動物	両生類・爬虫類
第29～30回目	総括	まとめ

科目名	動物解剖生理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	桒代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び生命体としての動物の細胞、組織。臓器レベルの各段階で理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の体の構造と機能を理解し、愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	伴侶動物解剖生理学		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	体の基本構造	細胞のしくみと働き、遺伝情報、組織、器官
第3～4回目	筋骨格系	骨格の構成、骨の構造、筋肉の働きと位置
第5～6回目	消化器系	消化器系の構造、動物種による特徴、消化吸収のしくみについて
第7～8回目	循環器系	循環器構成臓器と位置、循環器の役割と調節機構、胎子循環
第9～10回目	呼吸器系	呼吸器の構造と位置、呼吸方法とガス交換のしくみ、動物種ごとの特徴
第11～12回目	泌尿器系	泌尿器構成臓器と位置、尿の生成と排尿のしくみ、動物種ごとの違い
第13～14回目	生殖器系	生殖器系の構造と働き、生殖子の産生～分娩、動物種ごとの違い
第15～16回目	内分泌系	内分泌と外分泌の違い、内分泌器官の名称と分泌ホルモン、フィードバックのしくみについて
第17～18回目	神経系	中枢神経系と末梢神経系、脳と脊髄の構造と機能、体性神経系と内臓性神経系、痛覚の受容
第19～20回目	感覚器系	特殊感覚と対応する感覚器について、特殊感覚器の構造と特徴
第21～22回目	外皮系	皮膚の構造と付属器官の役割、動物種ごとの特徴的な構造やしくみ
第23～24回目	血液	血液の構成成分と機能、産生過程について、動物種ごとの特徴、血液凝固過程について
第25～26回目	免疫系	基本的な免疫の仕組み、免疫を担う細胞の働き、免疫にかかわる臓器の位置と構造
第27～28回目	代謝	エネルギー代謝のしくみ、栄養素ごとの代謝、動物種ごとの特徴について
第29～30回目	まとめ	まとめテスト・期末対策

科目名	しつけトレーニング実習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	川端 千賀子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭犬の正しい扱い方やトレーニングを通して、社会化の重要性と接し方について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬の行動観察、しつけの学習理論を学び、実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに関連するグッズ		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習に関する説明	実習前の準備や実習後の犬のケアについて
第2回目	犬の行動と学習理論	犬の行動観察、犬の学習方法について、褒めることについて学ぶ
第3回目	飼育環境に慣れさせる	新しい環境への順応の方法と実践
第4回目	人との生活に慣れさせる	仔犬との正しい接し方や、社会化トレーニングの重要性について、正しい犬の抱き方
第5回目	社会化トレーニング①	屋内で予想される身の回りの音や物に慣れさせる
第6回目	社会化トレーニング②	屋外で予想される身の回りの音や物に慣れさせる
第7回目	社会化トレーニング③	外出時や外出先で必要とされることへのトレーニングと対処方法
第8回目	問題行動①	問題行動とは、予防の重要性について知る
第9回目	問題行動②	問題行動の予防と対処に関するトレーニング
第10回目	問題行動③	問題行動の予防と対処に関するトレーニング
第11回目	身体ケアへのアプローチ方法	触られることに慣れさせるべき理由と、その重要性について
第12回目	グルーミングトレーニング①	足の周り、口周り、耳周りなどのケアのトレーニング
第13回目	グルーミングトレーニング②	足の周り、口周り、耳周りなどのケアのトレーニング
第14回目	まとめ①	総復習
第15回目	まとめ②	総復習

科目名	しつけトレーニング実習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	川端 千賀子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭犬の正しい扱い方やトレーニングを通して、社会化の重要性と接し方について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬の行動観察、しつけの学習理論を学び、日々の管理で実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニング関連するグッズ		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	散歩トレーニング①	目的別の散歩の必要性とは、近くに居ることに慣れさせるためのトレーニング
第2回目	散歩トレーニング②	横に居るメリットとは、横に居ることに慣れさせるためのトレーニング
第3回目	散歩トレーニング③	屋外での犬の行動観察、注意点
第4回目	散歩トレーニング④	散歩での緩急と、指示の出し方、歩かせ方
第5回目	リラックス方法	リラックスをすること、落ち着いている犬の状態を知る
第6回目	遊び①	犬との正しい遊び方、種類、必要なトレーニング
第7回目	遊び②	好きな遊びと個体の違いについて知る
第8回目	誘導の方法	正しい誘導の方法と、トレーニング方法
第9回目	基礎トレーニング①	座る、伏せる、立つの行動の方法
第10回目	基礎トレーニング②	言葉と行動の関連付けの方法
第11回目	基礎トレーニング③	言葉で試す
第12回目	基礎トレーニング④	様々な環境や状況で試してみる
第13回目	まとめ①	1年間のまとめ
第14回目	まとめ②	1年間のまとめ
第15回目	まとめ③	1年間のまとめ

科目名	野生動物管理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	坂庭 浩之	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	野生動物の特性を知り、その管理や獣害対策の方法を学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	野生動物の特徴や獣害発生メカニズムを自ら説明できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料 等		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	野生動物管理学の基礎	生態系や生物多様性など野生動物基本概念
第3～4回目	野生動物の特性	野生動物の生態や行動特性を学ぶ
第5～6回目	野生動物の調査方法	多様な調査方法について学ぶ
第7～8回目	屋外調査技術	獣害など屋外調査に必要な知識を学ぶ
第9～10回目	屋外調査（実習）	屋外調査により実習
第11～12回目	データ分析	得られたデータからリスクを分析する
第13～14回目	野生動物に関する法令	鳥獣保護管理法など関係法令を学ぶ
第15～16回目	農林業被害と対策	農林業被害の発生メカニズムについて
第17～18回目	獣害対策のための地域政策	被害管理と個体数管理の手法について
第19～20回目	獣害対策の実践（実習）	被害管理の実践について見学
第21～22回目	捕獲技術等について	銃や罠を用いた捕獲や狩猟について
第23～24回目	野生動物と感染症	ワンヘルスの概念について考える
第25～26回目	野生動物救護	救護の基本と考え方、動物倫理について
第27～28回目	外来種や絶滅危惧種	生物多様性の中の外来種や絶滅危惧種について
第29～30回目	総括	まとめ

科目名	校外飼育実習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	新井 さき（実習先）	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	連携先企業にて、飼育動物の生態や飼養方法などを実践的に学ぶ。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	動物種ごとの適切な扱いや飼養方法を身に付ける。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	清掃用具一式		
成績評価の方法・基準	連携先企業の実習評価により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	実習について	実習にあたっての説明
第9～16回目	実習①	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第17～24回目	実習②	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第25～32回目	実習③	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第33～40回目	実習④	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第41～48回目	実習⑤	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第49～56回目	実習⑥	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第57～64回目	実習⑦	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第65～72回目	実習⑧	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第73～80回目	実習⑨	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第81～88回目	実習⑩	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第89～96回目	実習⑪	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第97～104回目	実習⑫	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第105～112回目	実習⑬	連携先企業にて実習（飼育管理・清掃業務等）
第113～120回目	総括	実習のまとめ

科目名	動物飼育管理実習		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物の世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布プリント		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物飼育実習について	飼育管理内容、ふさわしい身だしなみ、飼育管理への向き合い方
第3～4回目	管理動物について	飼育管理動物別の管理方法、注意点、扱い方
第5～6回目	犬猫の扱い方	犬猫の抱っこ方法、保定方法、バイタルチェック、遊び方
第7～8回目	成犬猫と仔犬猫の違い	ライフステージ別の違い、注意点
第9～10回目	犬の管理①	犬の散歩の意義、動物の行動理論、方法と対応
第11～12回目	犬の管理②	犬の正しい接し方、犬のボディランゲージ
第13～14回目	犬の管理③	犬のしつけの継続と方法
第15～16回目	魚の管理	魚の給餌方法、水槽掃除の方法と手順
第17～18回目	爬虫類の管理	爬虫類の給餌方法、掃除方法、扱い方
第19～20回目	衛生管理①	衛生的な管理が必要な理由、方法、実践
第21～22回目	衛生管理②	衛生的な管理が必要な理由、方法、実践
第23～24回目	危機管理①	危機管理の重要性と予防策や対処法
第25～26回目	危機管理②	危機管理の重要性と予防策や対処法
第27～28回目	実習まとめ①	お互いの動きを把握し、効率よく動く
第29～30回目	実習まとめ②	効率よく動くと同時に、臨機応変な対応を身に付ける

科目名	飼育総合演習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	120時間	年間取得単位数	4単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	飼育管理室、フィールドワークなどを通して動物業界で求められる基礎技術から応用までを実践的に学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物業界で求められる専門的な知識、能力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度、提出物等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～4回目	基礎①	飼育員として必要なスキル、心構えを学ぶ
第5～8回目	基礎②	掃除実践編
第9～12回目	調査	動物説明パネルをつくる
第13～16回目	発表	動物説明パネルの発表
第17～20回目	フィールドワーク①	学校周辺、利根川散策
第21～24回目	フィールドワーク②	学校周辺、利根川散策
第25～28回目	フィールドワーク③	学校周辺、利根川散策
第29～32回目	校外飼育実習まとめ①	チームに分かれて校外飼育実習の内容をまとめる
第33～36回目	校外飼育実習まとめ②	まとめたものを発表する
第37～40回目	施設見学①	ぐんま昆虫の森見学
第41～44回目	まとめ①	見学レポート作成
第45～48回目	施設見学②	群馬県立自然史博物館見学
第49～52回目	まとめ②	見学レポート作成
第53～56回目	調理実習	飼育員として必要な調理技術を学ぶ
第57～60回目	総評	1年間のまとめ

科目名	飼育インターンシップ実習Ⅰ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	新井 さき(実習先)	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場での実習を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物飼育員として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物企業において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物企業）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	14日間で90時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・ 事前訪問予約
- ・ 持ち物・実習の内容等確認

2. 実習（実務型実習）

- ・ 諸注意事項確認
- ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
- ・ 清掃
- ・ 給餌
- ・ 生体管理

3. 実習後指導

- ・ 実習日誌まとめ提出
- ・ お礼状

科目名	検定対策Ⅰ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各種検定の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、過去問題集など		
成績評価の方法・基準	授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をして欲しい。また、テーマによっては講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	生物分類技能検定①	分類、形態、生態に関する問題
第3～4回目	生物分類技能検定②	分類、形態、生態に関する問題
第5～6回目	生物分類技能検定③	分類、形態、生態に関する問題
第7～8回目	生物分類技能検定④	分類、形態、生態に関する問題
第9～10回目	生物分類技能検定⑤	分類、形態、生態に関する問題
第11～12回目	生物分類技能検定⑥	生物の一般問題
第13～14回目	生物分類技能検定⑦	生物の一般問題
第15～16回目	生物分類技能検定⑧	生物の一般問題
第17～18回目	社会人常識マナー検定①	問題演習
第19～20回目	社会人常識マナー検定②	問題演習
第21～22回目	社会人常識マナー検定③	問題演習
第23～24回目	社会人常識マナー検定④	問題演習
第25～26回目	社会人常識マナー検定⑤	問題演習
第27～28回目	社会人常識マナー検定⑥	まとめ
第29～30回目	社会人常識マナー検定⑦	まとめ

科目名	就職実務 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	就職活動に向けて自己理解や協調性、心構えなどを学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	未来ノート、履歴書、その他就職活動準備に必要な教材		
成績評価の方法・基準	各種提出物の提出状況や内容・授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	未来ノート①	話し合いの意義
第2回目	未来ノート②	自己理解①「私の大切なもの探し」
第3回目	未来ノート③	自己理解②「私ってどんな人？」
第4回目	未来ノート④	自己理解③「自分を知る手がかり」
第5回目	未来ノート⑤	自己理解④「過去を振り返ろう」
第6回目	話し方①	発声、表情の練習
第7回目	話し方②	話題の作り方
第8回目	美文字練習①	ペン字（ひらがな、カタカナ、漢字）
第9回目	美文字練習②	ペン字（アルファベット、数字、文章）
第10回目	履歴書準備①	履歴書に記載する内容の整理
第11回目	履歴書準備②	履歴書に記載する内容の確認
第12回目	職場のマナー①	職場における様々なマナーを理解する
第13回目	職場のマナー②	来客対応を理解する
第14回目	身だしなみ①	就職活動における身だしなみを理解する
第15回目	身だしなみ②	就職活動における身だしなみを理解する

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各種提出物の提出状況や内容・授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	企業研究①	企業研究の意味、目的、やり方
第2回目	企業研究②	就職を視野に入れている企業について調べる
第3回目	社会保障①	社会保障制度の種類や目的について理解する
第4回目	社会保障②	各社会保障制度の内容について理解する
第5回目	美文字練習③	履歴書の記載内容①
第6回目	美文字練習④	履歴書の記載内容②
第7回目	自己啓発①	自分に自信を持つための自己啓発学習
第8回目	自己啓発②	自分に自信を持つための自己啓発学習
第9回目	履歴書作成①	履歴書を書く
第10回目	履歴書作成②	履歴書を書く
第11回目	模擬面接	採用面接に備えて話し方やマナーを理解する
第12回目	模擬面接	採用面接に備えて話し方やマナーを理解する
第13回目	模擬面接	採用面接に備えて話し方やマナーを理解する
第14回目	模擬面接	採用面接に備えて話し方やマナーを理解する
第15回目	模擬面接	採用面接に備えて話し方やマナーを理解する

科目名	特別飼育実習		
学科名	動物飼育学科		
分類	選択	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30～300時間	年間取得単位数	1～10単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場での実習を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物関連業界に就職するために必要な知識や技術を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物企業において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物企業）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	30時間毎に1単位を付与。欠席日数が半期5日以内及び期末試験において追試がなく、担任と学校長に許可された学生のみ選択することができる。他の授業は公欠となるが期末試験等については通常通り実施する。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

30時間毎に1単位を付与。

(例：1日8時間×4日間＝32時間 1単位／1日8時間×15日間＝120時間 4単位)

1. 実習準備

- ・ 事前訪問予約
- ・ 持ち物・実習の内容等確認

2. 実習（実務型実習）

- ・ 諸注意事項確認
- ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
- ・ 清掃
- ・ 給餌
- ・ 生体管理

3. 実習後指導

- ・ 実習日誌まとめ提出
- ・ お礼状

科目名	ペットエステ学 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	120時間	年間取得単位数	4単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ペットエステティック国際協会ジャパン資格ブロンズの合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、PEIA教本(ブロンズ)、PEIA教材		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業は講義と実習を併せて行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1～4回目	ペットエステティック概論	概論・歴史・コミュニケーション
第5～8回目	シャンプー理論①	ペット用シャンプーの区別
第9～12回目	シャンプー理論②	皮膚被毛の構造・成分
第13～16回目	シャンプー理論③	ドライイングの基本
第17～20回目	シャンプー理論④	シャンプーブローの実習
第21～24回目	アロマバス①	人間のアロマバス・ペット用のアロマバス
第25～28回目	アロマバス②	アロマバスの実習
第29～32回目	ネイル・肉球ケア	肉球ケアについて
第33～36回目	タラソーセラピー①	人間のタラソーセラピー
第37～40回目	タラソーセラピー②	タラソーセラピーシステムのメリット
第41～44回目	タラソーセラピー③	ペットエステスペシャルプログラムシリーズ
第45～48回目	タラソーセラピー④	技法1・技法3
第49～52回目	タラソーセラピー⑤	タラソーセラピーの実習
第53～56回目	アレルギーについて	エステティックを施す際の注意点
第57～60回目	ペットエステティックまとめ	ブロンズまとめ

科目名	ペットエステⅡ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 ・ 木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ペットエステティック国際協会ジャパン資格シルバーの合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、PEIA教本(シルバー)、PEIA教材		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業は講義と実習を併せて行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	アロマセラピー①	人間のアロマセラピー
第3～4回目	アロマセラピー②	アロマセラピーがもたらすメリット
第5～6回目	アロマセラピー③	アロマセラピーシステム、マッサージ技法
第7～8回目	アロマセラピー④	アロマセラピーとマッサージの実習
第9～10回目	ビビットカラー①	ビビットカラーシステムのメカニズム
第11～12回目	ビビットカラー②	ビビットカラーのメリット
第13～14回目	ビビットカラー③	ビビットカラーの紹介
第15～16回目	ビビットカラー④	ビビットカラーでの染色実習
第17～18回目	カラーレストレーション①	カラーレストレーションのメカニズム
第19～20回目	カラーレストレーション②	カラーレストレーションシステム
第21～22回目	カラーレストレーション③	アフターケア用品について
第23～24回目	カラーレストレーション④	カラーレストレーションでの染色実習
第25～26回目	ペットエステティックまとめ	シルバーまとめ
第27～28回目	ペットエステティックまとめ	シルバーまとめ
第29～30回目	ペットエステティックまとめ	シルバーまとめ

科目名	ペット美容学Ⅰ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットグルーミング、ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシックテクニック(緑書房)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウィネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	グルーマーの心得①	グルーミングの目的と心構え、犬の扱い方
第2回目	グルーマーの心得②	グルーミングの目的と心構え、各施術の目的
第3回目	グルーミング・ツール①	トリミングシザー・クリッパーについて
第4回目	グルーミング・ツール②	トリミングナイフ、その他グルーミングツール
第5回目	グルーミング①	犬の体の基礎知識、犬のお手入れについて
第6回目	グルーミング②	犬の保定と心がまえ、保定の基本
第7回目	グルーミング③	グルーミング用語
第8回目	犬の基礎知識①	体の構造と体温
第9回目	犬の基礎知識②	各部の構造・名称
第10回目	犬の基礎知識③	犬の分類、犬種
第11回目	犬の基礎知識④	骨格名称
第12回目	犬の基礎知識⑤	犬体名称
第13回目	犬の基礎知識⑥	皮膚の構造について
第14回目	犬の基礎知識⑦	被毛の構造・毛色について
第15回目	ラムクリップ①	ラムクリップとは

科目名	ペット美容学Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットグルーミングの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシックテクニック(緑書房)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウィネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ショップにおける基本	受付、接客対応について
第2回目	グルーマー獣医学①	健康の確認、病気の早期発見
第3回目	グルーマー獣医学②	皮膚の疾患、その他の疾患、感染症について
第4回目	グルーマー獣医学③	各部の構造
第5回目	グルーマー獣医学④	歯列咬合
第6回目	グルーマー獣医学⑤	応急処置
第7回目	ラムクリップ②	ショークリップ・ペットクリップ・名称
第8回目	ラムクリップ③	ラムクリップの手順、ラムクリップのバランス
第9回目	ラムクリップ④	ラムクリップの手順、ラムクリップのバランス
第10回目	ラムクリップ⑤	ラムクリップの手順、ラムクリップのバランス
第11回目	ラムクリップ⑥	ラムクリップのアウトライン
第12回目	ラムクリップ⑦	ラムクリップのアウトライン
第13回目	ラムクリップ⑧	ラムクリップのアウトライン
第14回目	ラムクリップ⑨	ラムクリップまとめ
第15回目	ラムクリップ⑩	ラムクリップまとめ

科目名	愛玩動物飼養管理士学		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペット（愛玩動物）の習性や正しい飼い方、動物関連法規（動物愛護管理法、ペットフード安全法など）、動物愛護精神などを、多くの人に広められる能力を身に付ける。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	愛玩動物飼養管理士2級 第1巻・第2巻		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	愛玩動物飼養管理士 生命倫理・福祉	愛玩動物飼養管理士の意義や責任、協会の歴史について、動物の福祉とその歴史、倫理の重要性
第3～4回目	動物愛護・適正飼養関連法規①	法律を学ぶ意義、動物の愛護、動物関連法令
第5～6回目	動物愛護・適正飼養関連法規②	動物関連法令、適正飼養関連法規
第7～8回目	動物愛護・適正飼養関連法規③	行政、自然環境法令
第9～10回目	関連産業	ペット業界の過去と現在、関連法令
第11～12回目	愛玩動物学①	正しい関わり方と接し方、動物の健康維持、動物種別の身体的特徴
第13～14回目	愛玩動物学②	動物種別の身体的特徴、飼育管理と食性
第15～16回目	動物の体の仕組み	動物の体の仕組み、形態機能
第17～18回目	動物の行動としつけ①	学習理論
第19～20回目	動物の行動としつけ②	犬猫の発達過程、コミュニケーション方法、社会行動、しつけの理論
第21～22回目	関係学・生活環境学①	動物種別の飼育管理と食性、動物との関係性と歴史、動物への思想
第23～24回目	関係学・生活環境学②	動物への思想、動物を使用した介在活動、ペットの歴史と現在、共生住宅
第25～26回目	試験前まとめ	試験対策（スクーリング教材の見直しと課題報告問題）
第27～28回目	総まとめ①	総合演習
第29～30回目	総まとめ②	総合演習

科目名	エキゾチックアニマル学		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	エキゾチックアニマルの種類や飼養方法、病気などについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	エキゾチックアニマルを適正に扱うことができる知識を身につけ、一般の人向けに説明をできるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ペットの飼養管理（日本愛玩動物協会）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ウサギ①	生物学的特徴、分類、品種の特徴、身体検査、飼育方法、環境、消化に関する仕組み
第2回目	ウサギ②	一般の人へ向けた説明の方法と実践
第3回目	ハムスター①	生物学的特徴、分類、品種の特徴、身体検査、飼育方法、環境、消化に関する仕組み
第4回目	ハムスター②	一般の人へ向けた説明の方法と実践
第5回目	デグー①	生物学的特徴、分類、品種の特徴、身体検査、飼育方法、環境、消化に関する仕組み
第6回目	デグー②	一般の人へ向けた説明の方法と実践
第7回目	チンチラ①	生物学的特徴、分類、品種の特徴、身体検査、飼育方法、環境、消化に関する仕組み
第8回目	チンチラ②	一般の人へ向けた説明の方法と実践
第9回目	モルモット①	生物学的特徴、分類、品種の特徴、身体検査、飼育方法、環境、消化に関する仕組み
第10回目	モルモット②	一般の人へ向けた説明の方法と実践
第11回目	鳥①	生物学的特徴、分類、品種の特徴、身体検査、飼育方法、環境、消化に関する仕組み
第12回目	鳥②	一般の人へ向けた説明の方法と実践
第13回目	フェレット①	生物学的特徴、分類、品種の特徴、身体検査、飼育方法、環境、消化に関する仕組み
第14回目	フェレット②	一般の人へ向けた説明の方法と実践
第15回目	まとめ	まとめ

科目名	グルーミング実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 田中 里恵 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 シャンプーコース(各部バリカン、部分カットを含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定3級の資格取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシック・テクニク(緑書房)トリマー検定、サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	グルーミング基礎①	グルーミングの説明と道具について
第9～16回目	グルーミング基礎②	ウィッグ・道具の基礎練習
第17～24回目	グルーミング基礎③	ウィッグ・道具の基礎練習
第25～32回目	グルーミング基礎④	ウィッグ・道具の基礎練習
第33～40回目	グルーミング基礎⑤	ウィッグ・道具の基礎練習
第41～48回目	グルーミング基礎⑥	ウィッグ・道具の基礎練習
第49～56回目	グルーミング①	実習犬でのお手入れ、ブラッシング実習
第56～64回目	グルーミング②	実習犬でのシャンプー実習
第65～72回目	グルーミング③	実習犬でのシャンプー実習
第73～80回目	グルーミング④	実習犬でのシャンプー実習
第81～88回目	グルーミング⑤	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習
第89～96回目	グルーミング⑥	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習
第97～104回目	グルーミング⑦	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習
第105～112回目	グルーミング⑧	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習
第113～120回目	グルーミング⑨	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習

科目名	グルーミング実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 田中 里恵 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方、グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 カットコース(全身バリカン、顔カット、部分カット、シャンプーコースを含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定3級の資格取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシック・テクニック(緑書房)トリマー検定、サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	グルーミング⑩	シャンプー実習、カット実習
第9～16回目	グルーミング⑪	シャンプー実習、カット実習
第17～24回目	グルーミング⑫	シャンプー実習、カット実習
第25～32回目	グルーミング⑬	シャンプー実習、カット実習
第33～40回目	グルーミング⑭	シャンプー実習、カット実習
第41～48回目	グルーミング⑮	シャンプー実習、カット実習
第49～56回目	グルーミング⑯	シャンプー実習、カット実習
第56～64回目	グルーミング⑰	シャンプー実習、カット実習
第65～72回目	グルーミング⑱	シャンプー実習、カット実習
第73～80回目	グルーミング⑲	シャンプー実習、カット実習
第81～88回目	グルーミング⑳	シャンプー実習、カット実習
第89～96回目	グルーミング㉑	シャンプー実習、カット実習
第97～104回目	グルーミング㉒	シャンプー実習、カット実習
第105～112回目	グルーミング㉓	シャンプー実習、カット実習
第113～120回目	グルーミング㉔	シャンプー実習、カット実習

科目名	動物飼育管理実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物の世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布プリント		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	実習時には、動物を扱うにふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物飼育実習について	飼育管理内容、ふさわしい身だしなみ、飼育管理への向き合い方、飼育管理室内を知る
第3～4回目	仔犬	子犬と成犬の違い、扱い方、社会化
第5～6回目	飼育管理室 2 階	飼育管理室内の一通りの流れを知る
第7～8回目	飼育管理室 1 階	飼育管理室内の一通りの流れを知る
第9～10回目	掃除	掃除の方法と手法について知る
第11～12回目	犬・猫と遊ぶ	動物種ごとの違いを把握し、個体ごとの遊びを実施
第13～14回目	魚の管理	魚の水槽やアクアリウムについて学ぶ
第15～16回目	鳥・小動物の管理	鳥、小動物や管理について学ぶ
第17～18回目	動物のグルーミング①	犬・猫・のグルーミングを学ぶ
第19～20回目	動物のグルーミング②	ハリネズミのグルーミングを学ぶ
第21～22回目	備品管理	備品の管理表の制作と実装
第23～24回目	犬のおもちゃづくり	知育系の玩具の作成
第25～26回目	協働	協力して動くことの大切さ、チームプレイを学ぶ
第27～28回目	飼育管理の現状	飼育管理室の現状を把握し、改善策を提示する
第29～30回目	飼育管理とは	学校と動物を取り扱う店での管理の違いについて学ぶ

科目名	しつけトレーニング実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	川端 千賀子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭犬の正しい扱い方やトレーニングを通して、社会化の重要性と接し方について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬の行動観察、しつけの学習理論を学び、日々の管理で実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに関連するグッズ		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習に関する説明	実習前の準備や実習後の犬のケアについて
第2回目	犬の行動と学習理論	犬の行動観察、犬の学習方法について、褒めることについて学ぶ
第3回目	飼育環境に慣れさせる	新しい環境への順応の方法と実践
第4回目	人との生活に慣れさせる	仔犬との正しい接し方や、社会化トレーニングの重要性について、正しい犬の抱き方
第5回目	社会化トレーニング①	屋内で予想される身の回りの音や物に慣れさせる
第6回目	社会化トレーニング②	屋外で予想される身の回りの音や物に慣れさせる
第7回目	社会化トレーニング③	外出時や外出先で必要とされることへのトレーニングと対処方法
第8回目	問題行動①	問題行動とは、予防の重要性について知る
第9回目	問題行動②	問題行動の予防と対処に関するトレーニング
第10回目	問題行動③	問題行動の予防と対処に関するトレーニング
第11回目	身体ケアへのアプローチ方法	触られることに慣れさせるべき理由と、その重要性について
第12回目	グルーミングトレーニング①	足の周り、口周り、耳周りなどのケアのトレーニング
第13回目	グルーミングトレーニング②	足の周り、口周り、耳周りなどのケアのトレーニング
第14回目	まとめ①	総復習
第15回目	まとめ②	総復習

科目名	しつけトレーニング実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	川端 千賀子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭犬の正しい扱い方やトレーニングを通して、社会化の重要性と接し方について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬の行動観察、しつけの学習理論を学び、日々の管理で実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニング関連するグッズ		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	散歩トレーニング①	目的別の散歩の必要性とは、近くに居ることに慣れさせるためのトレーニング
第2回目	散歩トレーニング②	横に居るメリットとは、横に居ることに慣れさせるためのトレーニング
第3回目	散歩トレーニング③	屋外での犬の行動観察、注意点
第4回目	散歩トレーニング④	散歩での緩急と、指示の出し方、歩かせ方
第5回目	リラックス方法	リラックスをするということ、落ち着いている犬の状態を知る
第6回目	遊び①	犬との正しい遊び方、種類、必要なトレーニング
第7回目	遊び②	好きな遊びと個体の違いについて知る
第8回目	誘導の方法	正しい誘導の方法と、トレーニング方法
第9回目	基礎トレーニング①	座る、伏せる、立つの行動の方法
第10回目	基礎トレーニング②	言葉と行動の関連付けの方法
第11回目	基礎トレーニング③	言葉で試す
第12回目	基礎トレーニング④	様々な環境や状況で試してみる
第13回目	まとめ①	1年間のまとめ
第14回目	まとめ②	1年間のまとめ
第15回目	まとめ②	1年間のまとめ

科目名	美容インターンシップ実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	田中 里恵（実習先）	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	様々なペット関連企業でトリマーとしての役割を知る。自分の理想とするトリマーになる為に自己の課題を見つけ、キャリアデザインを設計する。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	トリマーとして必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	特になし		
成績評価の方法・基準	原則学校が定めた企業において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物企業）で協議して行う。評価は実習評価表に実習先より評価をいただく。		
履修に当たっての留意点	60時間履修しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされる ことを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・ 事前訪問予約
- ・ 持ち物・実習の内容等確認

2. 実習（実務型実習）

- ・ 諸注意事項確認
- ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
- ・ 清掃
- ・ グルーミング業務

3. 実習後指導

- ・ 実習日誌まとめ提出
- ・ お礼状

科目名	検定対策Ⅰ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各種検定の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、問題集など		
成績評価の方法・基準	授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をして欲しい。また、テーマによっては講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	愛玩動物飼養管理士①	課題問題
第2回目	愛玩動物飼養管理士②	課題問題
第3回目	愛玩動物飼養管理士③	課題問題
第4回目	愛玩動物飼養管理士④	課題問題
第5回目	愛玩動物飼養管理士⑤	課題問題
第6回目	愛玩動物飼養管理士⑥	課題問題
第7回目	愛玩動物飼養管理士⑦	課題問題
第8回目	愛玩動物飼養管理士⑧	課題問題
第9回目	愛玩動物飼養管理士⑨	課題問題
第10回目	愛玩動物飼養管理士⑩	課題問題
第11回目	サロントリマー検定①	課題問題
第12回目	サロントリマー検定②	課題問題
第13回目	サロントリマー検定③	課題問題
第14回目	サロントリマー検定④	課題問題
第15回目	サロントリマー検定⑤	課題問題

科目名	検定対策Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各種検定の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、過去問題集など。		
成績評価の方法・基準	授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	愛玩動物飼養管理士⑪	課題問題
第2回目	愛玩動物飼養管理士⑫	課題問題
第3回目	愛玩動物飼養管理士⑬	課題問題
第4回目	愛玩動物飼養管理士⑭	課題問題
第5回目	愛玩動物飼養管理士⑮	課題問題
第6回目	社会人常識マナー検定①	過去問題集
第7回目	社会人常識マナー検定②	過去問題集
第8回目	社会人常識マナー検定③	過去問題集
第9回目	社会人常識マナー検定④	過去問題集
第10回目	社会人常識マナー検定⑤	過去問題集
第11回目	サロントリマー検定⑥	課題問題
第12回目	サロントリマー検定⑦	課題問題
第13回目	サロントリマー検定⑧	課題問題
第14回目	サロントリマー検定⑨	課題問題
第15回目	サロントリマー検定⑩	課題問題

科目名	就職実務 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	就職活動に向けて自己理解や協調性、心構えなどを学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	未来ノート、履歴書、その他就職活動準備に必要な教材		
成績評価の方法・基準	各種提出物の提出状況や内容等によって判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	自己紹介	自分のことを知ってもらう
第2回目	コミュニケーション	コミュニケーションゲームを通じて相手を知る
第3回目	未来ノート①	話し合いの意義
第4回目	未来ノート②	自己理解①「私の大切なもの探し」
第5回目	未来ノート③	自己理解②「私ってどんな人？」
第6回目	未来ノート④	自己理解③「自分を知る手がかり」
第7回目	未来ノート⑤	自己理解④「過去を振り返ろう」
第8回目	未来ノート⑥	自己理解④「過去を振り返ろう」
第9回目	未来ノート⑦	自己理解④「過去を振り返ろう」
第10回目	美文字練習①	字を丁寧に書くことを学ぶ
第11回目	美文字練習②	読みやすいきれいな字を書くことを学ぶ
第12回目	履歴書準備①	履歴書の購入、履歴書の書き方について
第13回目	履歴書準備②	履歴書で書く内容を決め、下書きする
第14回目	履歴書準備③	実際に履歴書を作成し、総合実習に備える
第15回目	履歴書準備④	実際に履歴書を作成し、総合実習に備える

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各種提出物の状況や内容等によって判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	企業研究①	企業研究の意味、目的、やり方
第2回目	企業研究②	就職を視野に入れている企業について調べる
第3回目	社会保障①	社会保障制度の種類や目的について理解する
第4回目	社会保障②	各社会保障制度の内容について理解する
第5回目	美文字練習③	履歴書の記載内容①
第6回目	美文字練習④	履歴書の記載内容②
第7回目	自己啓発①	自分に自信を持つための自己啓発学習
第8回目	自己啓発②	自分に自信を持つための自己啓発学習
第9回目	履歴書作成①	履歴書を書く
第10回目	履歴書作成②	履歴書を書く
第11回目	企業訪問①	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第12回目	企業訪問②	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第13回目	企業訪問③	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第14回目	電話応対	電話のかけ方、話し方のマナーを理解する
第15回目	御礼状の書き方	企業に向けた実習後の御礼状の書き方

科目名	特別授業Ⅰ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	校外活動や専門分野以外の内容も含め、さまざまな授業を通じて個々の成長、経験に繋げ人間力の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	コミュニケーション能力向上・企画力や協調性等社会人として必要なスキルを身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	出席状況や授業態度等により評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は、不合格とする。		
履修に当たっての留意点	各授業の目的を理解し、各々の成長に繋がるよう積極的に参加すること。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	校外体験実習①	東京理器（株）工場見学
第3～4回目	校外体験実習②	東京理器（株）鋏の講習会
第5～6回目	POP作成①	看板や宣伝広告の作成
第7～8回目	POP作成②	看板や宣伝広告の作成
第9～10回目	POP作成③	看板や宣伝広告の作成
第11～12回目	リボン作成	オリジナルリボンの作成
第13～14回目	校外体験実習③	校外実習準備等
第15～16回目	校外体験実習④	校外実習準備等
第17～18回目	校外体験実習⑤	ボランティア活動準備
第19～20回目	校外体験実習⑥	ボランティア活動準備
第21～22回目	校外体験実習⑦	校外の企業や施設見学
第23～24回目	校外体験実習⑧	校外の企業や施設見学
第25～26回目	振り返り	企業や施設見学の振り返り
第27～28回目	実習について①	実習先調査
第29～30回目	実習について②	実習先調査、実習準備

講義概要

SYLABUS 2025

《2 学年》



学校法人 有坂中央学園

CAN 中央動物看護専門学校

目 次

学園の沿革	-----	1
教育の基本方針	-----	2
各種検定一覧	-----	3
履修科目一覧	-----	4
実務経験のある教員による授業科目一覧	-----	5
講義概要	-----	8
・ 動物看護学科	愛玩動物看護師専攻	
・ 動物飼育学科	動物園飼育員専攻	
	水族館飼育員専攻	
	牧場スタッフ専攻	
・ 動物美容学科	ペット美容トリマー専攻	

学園の沿革

1942 年	9 月	有坂学園『前橋服装女学院』創立。初代校長に有坂作太郎が就任する。
1952 年	7 月	北関東初の簿記会計の専門校として『有坂学園・前橋商業学校』に改称する。
1965 年	4 月	『有坂学園・前橋高等経理学校』に校名を改称する。
1974 年	9 月	第 2 代校長に有坂作太郎の長女である中島芳子が就任する。
1976 年	4 月	創立 35 周年を迎え、総合経理の専門学校として歩み出す。
1983 年	10 月	第 3 代校長に山中庄太郎(元県出納長)が就任する。
1985 年	3 月	新校舎完成。群馬の中央・頭脳都市新前橋に移転する。
1986 年	4 月	産能短大と提携。県下初のダブル・スクール制度を採用する。
1988 年	5 月	『中央情報経理専門学校』に校名を変更する。
	10 月	全国経理学校協会女子ソフトボール関東大会初出場初優勝。
1990 年	4 月	経理と情報教育を充実させるため本館・2 号館・3 号館に近代的な設備を完備する。
1991 年	7 月	産学一体の教育を目的に人事交流連絡会『人材育成フォーラム』を発足する。
1992 年	7 月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、電卓の部優勝。 簿記の部、珠算の部も上位入賞を果たす。
	9 月	創立 50 周年を迎える。
1997 年	4 月	情報処理検定にて全国 1 位の成績に贈られる『広中平祐賞』を受賞する。
1998 年	4 月	中央情報経理専門学校太田校(太田市)創立。
		中央工学院専門学校(前橋市)創立。
	7 月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、3 部門すべて 上位入賞し、全国大会出場を果たす。
1999 年	4 月	中央高等専門学院(前橋市)創立。
2000 年	1 月	早稲田コンピュータ専門学校(高崎市)がグループ校に加わる。
2001 年	4 月	高崎ビューティモード専門学校(高崎市)創立。
2001 年	11 月	ISO9001 を高等教育機関において全国初で認証を受ける。
2002 年	9 月	創立 60 周年を迎える。
2003 年	4 月	中央医療歯科専門学校太田校(太田市)創立。
2004 年	4 月	中央医療歯科専門学校に校名変更。
2004 年	7 月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、簿記の部優勝。 電卓の部、珠算の部準優勝。
	9 月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会全国大会において、簿記の部準優勝。 電卓の部 6 位。
2005 年	4 月	群馬法科ビジネス専門学校(前橋市)、高崎ペットワールド専門学校(高崎市)創立。
	12 月	全国専門学校ロボット競技会において全国優勝。ハードウェア部門優勝・3 位。
2006 年	4 月	中央工学院専門学校と中央情報経理専門学校のデジタルデザイン科が統合して、 中央工科デザイン専門学校と校名変更。
2006 年	7 月	全国経理教育協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、 簿記の部、電卓の部準優勝。
	9 月	全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部優勝。 電卓の部準優勝。簿記個人の部においても、1 位から 3 位まで入賞。
2007 年	9 月	全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部 2 年連続優勝。
	12 月	全国専門学校ロボット競技会においてハードウェア部門準優勝。
2009 年	3 月	中央工科デザイン専門学校(前橋市古市町)移転。
2011 年	4 月	中央農業グリーン専門学校(前橋市南町)創立。 群馬法科ビジネス専門学校桐生校(桐生市)創立。
2012 年	9 月	創立 70 周年を迎える。
2014 年	3 月	文部科学大臣認定 職業実践専門課程の認定を受ける。
2016 年	4 月	高崎ペットワールド専門学校(前橋市古市町)移転。 中央動物看護専門学校に校名変更
2017 年	4 月	中央医療歯科専門学校高崎校(高崎市)創立。
2018 年	4 月	中央情報経理専門学校高崎校を中央情報大学校に校名変更。 中央農業グリーン専門学校を中央農業大学校に校名変更。
2019 年	12 月	中央動物看護専門学校が群馬サファリワールドと職業教育連携。
2020 年	7 月	前橋東洋医学専門学校がグループ校(前橋市)に加わる。
2021 年	4 月	前橋東洋医学専門学校を中央スポーツ医療専門学校に校名変更。
2022 年	3 月	中央動物看護専門学校が北軽井沢地域と包括的職業教育連携。
2022 年	9 月	創立 80 周年を迎える。第四代理事長に中島慎太郎が就任する。
2024 年	2 月	全国選抜トリマー選手権大会においてミドル部門で準優勝。

中央動物看護専門学校 教育基本方針

○建学精神

『人と動物の絆』

○教育目標

『動物福祉の精神に立ち動物を慈しむ優しい心を持つ』

・人と動物のより良い関係づくりを目指し人と動物の両者に対して情熱を傾けられる人材

『失敗から学ぶ心と方法を知る』

・試行錯誤を通して、仕事を学ぶ「心」と「方法」を体得できる人材

『スペシャリストに必要な知識と技能を身に付ける』

・動物看護・動物飼育・動物美容の知識とスキルを学び、その専門性を広く応用できる人材

『豊かな人間性とビジネスマナーを兼ね備える』

・社会で活躍するために必要な豊かな人間性と飼い主とのより良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を兼ね備えた人材

○学園標語

『思いやりの心、感謝の心、奉仕の心』

○学科概要

●動物看護学科

・愛玩動物看護師専攻

動物病院などで、獣医師のパートナーとして活躍する動物看護師。その業務は獣医診療や検査・手術の補助、飼い主に対する健康管理指導など数多く、確かな知識と技術、責任感が求められる。本学科では基礎看護学をはじめ動物病院業務を実践的に学習する。

●動物飼育学科

・動物園飼育員専攻

絶滅の危機に瀕している野生動物を守る為の役割を担う動物園やサファリパークで動物の生態を管理する仕事である動物飼育員。飼育のプロによる指導で愛玩動物から野生動物まで幅広い動物種に対応できる知識や技術を磨き、即戦力となるよう実践的に学習する。

○基本方針

本校では、所定の年限の課程を通じて、高度な知識と技術を修得し、社会に貢献できる豊かな人間性を身につけることを最大の目標としている。

社会は、単に言われた通りに仕事ができる人間ではなく、与えられた環境の中で何を試すべきかを考え、その実現の為に自らの意思で行動できる明るく積極的な人間を求めている。このことは、人から教えてもらうのではなく、さまざまな体験を通じて事実をつかむ眼、本質を見抜く力を養い、そして、そこで生ずる問題を自分の問題としてとらえる力を身につけることにより学べるものである。実社会で最も必要としている問題解決能力とは、まさにそのことの実践でもある。

『体験から学ぶ』ことの大切さを理解し、自ら学び、自ら行動することを目指し、学生生活が有意義に送れるよう心がけることを学生に望む。

特に学習活動のみならず学校内外の諸活動、仕事体験など、幅広い「体験」から「学ぶ」ことによって、一人ひとりのアイデンティティを高めていくことを本校の真の狙いとしている。

○具体的方針

『やって・見て・考える』

様々な行事体験から問題解決の実践により「事実の本質」を体得する。また PDCA サイクルを理解し仕事に活かす。

・水族館飼育員専攻

水生動物の生態を学び、水族館で生活する動物の健康を守る水族館飼育員。水生動物はもちろん、それらの動物たちの生育環境を護るために必要な知識や技術を磨く。

・牧場スタッフ専攻

畜産動物の飼育方法を学ぶと同時にアニマルウェルフェアについて理解を深める。動物たちのストレスに配慮した飼育環境や接し方なども学ぶ。観光牧場等でパフォーマンスができるための技術も身につける。

●動物美容学科

・ペット美容トリマー専攻

シャンプーやカット技術、内面からの健康にアプローチをかけるエステやアロマなども学ぶ。お客様へのビジネスマナーも学び、様々な職場で活躍することができる知識、技術を身につける。

各 種 検 定 一 覧

種 目	主 催	試 験 時 期
動物看護分野		
愛玩動物看護師（国家資格）	動物看護師統一認定機構	毎年2月中旬日曜日
動物健康衛生管理検定	全国動物専門学校協会	毎年9月、1月（第3週）
ペット栄養管理士認定試験	日本ペット栄養学会	6月、9月、翌年1月 （2年次10月以降）
ペットBLS検定	日本ペットBLS防災学会	履修後随時
動物飼育分野		
動物飼育管理士	日本動物飼育協会	例年5月、12月実施
愛玩動物飼養管理士	日本愛玩動物協会	11月、翌年2月
ペットフード・ペットマナー検定	ペットフード協会	奇数月
生物分類技能検定	自然環境研究センター	8月1日（金）～9月29日（月）
潜水士（国家資格）	安全衛生技術試験協会	6月、7月、9月、12月、 翌年2月
グリーンセイバー	樹木・環境ネットワーク協会	8月
ビオトープ管理士	日本生態系協会	11月2日（日）
スクーバダイビング	PADI	8月、9月
乗馬ライセンス	全国乗馬倶楽部振興協会	8月
美容分野		
サロントリマー検定	全国動物専門学校協会	筆記：9月、1月 第3週 実技：随時
PEIA ゴールド	ペットエステティック国際協会	履修後
PEIA シルバー	ペットエステティック国際協会	履修後
PEIA ブロンズ	ペットエステティック国際協会	履修後
ビジネス分野		
社会人常識マナー検定	全国経理教育協会	6月、9月、翌年1月
電話応対技能検定	日本電信電話ユーザ協会	毎月第1水曜日

※試験時期は前年度実績に基づいて算出しておりますので、変更になる可能性もあります。

履修科目一覧

動物看護学科				動物飼育学科				動物美容学科			
愛玩動物看護師専攻				動物園飼育員専攻 水族館飼育員専攻 牧場スタッフ専攻				ペット美容トリマー専攻			
2年次				2年次				2年次			
科目	前期	後期	頁	科目	前期	後期	頁	科目	前期	後期	頁
動物繁殖学	○		9	エキゾチックアニマル学	○	○	30	ペットエステ・美容学Ⅲ	○		48
動物栄養学	○	○	10	動物行動学	○		31	ペットエステ・美容学Ⅳ		○	49
動物病理学		○	11	動物感染症学	○		32	グルーミング実習Ⅲ	○		50
動物感染症学Ⅱ	○	○	12	動物基礎栄養学	○		33	グルーミング実習Ⅳ		○	51
動物内科看護学Ⅱ	○		13	飼育健康管理学	○	○	34	動物飼育実習Ⅲ	○		52
動物外科看護学Ⅱ	○		14	自然環境保護	○		35	動物美容総合実習Ⅱ	○		53
動物臨床看護学各論Ⅰ	○	○	15	アクアリウム演習		○	36	校外美容実習	○		54
動物医療コミュニケーション	○		16	環境教育学		○	37	検定対策Ⅲ	○		55
適正飼養指導論	○	○	17	動物園学 ※1	○	○	38	就職実務Ⅲ	○		56
ペット関連産業概論		○	18	水族館学 ※2			39	特別課外授業	○	○	57
動物内科看護学実習Ⅱ		○	19	畜産学 ※3			40				
動物臨床検査学実習	○	○	20	校外飼育実習Ⅱ	○		41				
動物外科看護学実習Ⅱ	○		21	しつけトレーニング実習	○	○	42				
動物臨床看護学実習Ⅰ		○	22	動物総合実習Ⅱ	○		43				
動物愛護・適正飼養実習		○	23	検定対策Ⅱ	○	○	44				
動物看護総合実習Ⅱ	○		24	就職実務Ⅲ	○		45				
グルーミング実習Ⅱ	○		25	スポーツトレーニング実践	○	○	46				
しつけトレーニング実習Ⅱ	○		26	特別課外授業	○	○	47				
検定対策Ⅱ	○		27								
就職実務Ⅱ	○		28								
特別課外授業	○	○	29								

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物看護学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
動物病理学	松本 禎基	獣医師免許取得後、動物病院にて6年の実務経験。	11	30
動物内科看護学実習Ⅱ			19	30
動物外科看護学実習Ⅱ			21	30
動物感染症学Ⅱ	杵代 俊枝	獣医師免許取得後、県庁職員（獣医公衆衛生関連業務）として36年の実務経験。	12	60
適正飼養指導論			17	60
ペット関連産業概論			18	30
動物臨床検査学実習			20	60
動物内科看護学Ⅱ	岩崎 美香	専門学校卒業後、動物病院にて12年の実務経験。	13	30
動物外科看護学Ⅱ			14	30
動物愛護・適正飼養実習			23	60
動物外科看護学実習Ⅰ			22	30
動物臨床看護学各論Ⅰ	田中 義朗	獣医師免許取得後、県庁職員（食肉衛生、動物愛護センター等）として41年の実務経験。	15	60
動物医療コミュニケーション	小鮎 穂香	専門学校卒業後、動物病院で2年の実務経験。	16	30
動物臨床看護学実習Ⅰ			22	30
グルーミング実習Ⅱ	赤坂 成美	グルーミングスクール卒業後、ドッグサロンにて7年間の実務経験。	25	90
グルーミング実習Ⅱ	田中 里恵	動物病院・ペットショップ・ドッグサロンにて7年間の実務経験。	25	90
グルーミング実習Ⅱ	伊井 由莉香	専門学校を卒業後、Dog Salon Hyggeを開業。現在もトリマーとして活躍。	25	90
グルーミング実習Ⅱ	青木 恋雪	専門学校を卒業後、ドッグサロン・ペットショップにてトリマーとして10年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	25	90
しつけトレーニング実習Ⅱ	川端 千賀子	ドッグトレーニングインストラクターとして25年間の実務経験。現在も活躍。	26	30

※記載は2025年度のための科目とする

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物飼育学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
エキゾチックアニマル学	山崎 陽平	日本蛇族研究所研究員兼ジャパンスネークセンター飼育委員を4年実務経験。環境アセスメントを14年実務経験。	30	60
動物行動学 環境教育学 動物園学	吉田 卓史	大学を卒業後、動物園7年間・生物調査3年間の実務経験。	31 37 38	30 30 60
動物感染症学	湊 和之	獣医師免許取得後、家畜保健衛生所や畜産試験場など41年間の実務経験。	32	30
飼育健康管理学	新井 さき	専門学校卒業後、動物園・乗馬クラブにて12年間の実務経験。	34	60
自然環境保護	坂庭 浩之	獣医師免許取得後、食品衛生検査所や林業試験場などにて18年間の実務経験。	35	30
アクアリウム演習	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	36	30
畜産学	小淵 裕子	獣医師免許取得後、県庁職員（家畜保健衛生関連業務）として35年の実務経験。□	40	60

※記載は2025年度のための科目とする

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物美容学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
ペットエステ・美容学Ⅲ	赤坂 成美	グルーミングスクール卒業後、ドッグサロンにて7年間の実務経験。	48	60
ペットエステ・美容学Ⅳ			49	60
グルーミング実習Ⅲ			50	240
グルーミング実習Ⅳ			51	270
グルーミング実習Ⅲ	田中 里恵	動物病院・ペットショップ・ペットサロンにてトリマーとして7年間の実務経験。	50	240
グルーミング実習Ⅳ			51	270
グルーミング実習Ⅲ	伊井 由莉香	専門学校を卒業後、専門学校講師を務める。その後、Dog Salon Hyggeを開業。現在もトリマーとして活躍。	50	240
グルーミング実習Ⅳ			51	270
グルーミング実習Ⅲ	青木 恋雪	専門学校を卒業後、ドッグサロン・ペットショップにてトリマーとして10年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	50	240
グルーミング実習Ⅳ			51	270
動物飼育実習Ⅲ	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	52	60

※記載は2025年度のための科目とする

講 義 概 要

科目名	動物繁殖学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 里海	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠、分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の繁殖について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生殖とその分類	生殖器の分類を理解する
第2回目	生殖器の基本的なしくみ①	雄の生殖器、副生殖腺を理解する
第3回目	生殖器の基本的なしくみ②	雌の生殖器、各種臓器の役割を理解する
第4回目	生殖機能調節に関わるホルモン	生殖系ホルモンの種類、産生部位を理解する
第5回目	発情徴候と発情周期①	犬の発情徴候および発情周期について理解する
第6回目	発情徴候と発情周期②	猫の発情徴候および発情周期について理解する
第7回目	受精と妊娠	犬および猫の受精、妊娠診断について理解する
第8回目	分娩と助産、帝王切開①	犬と猫の分娩徴候、分娩の様式について理解する
第9回目	分娩と助産、帝王切開②	帝王切開について理解する
第10回目	遺伝子と器官発生	形質と遺伝、染色体、遺伝に関する法則を理解する
第11回目	去勢、不妊手術	去勢、不妊手術のメリットとデメリットを理解する
第12回目	人工授精	人工授精の種類、方法について理解する
第13回目	新生子期とは	新生子期について理解する
第14回目	新生子のための飼養環境①	新生子の管理方法について理解する
第15回目	新生子のための飼養環境②	新生子がかかりやすい疾患について理解する
第16回目	新生子の解剖学的特徴	新生子の生殖器、先天的異常について理解する
第17回目	新生子の生理的機能、まとめ	新生子の生理的機能を理解する

科目名	動物栄養学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の栄養についてを理解し、愛玩動物看護師国家資格の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	基礎栄養①	5大栄養素について理解する
第3～4回目	基礎栄養②	栄養要求の種差について理解する
第5～6回目	基礎栄養③	植生、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する
第7～8回目	基礎栄養④	健康維持における栄養の意味、栄養素の不足、過剰症について理解する
第9～10回目	栄養要求量①	エネルギー要求量の意味と計算方法について理解する
第11～12回目	栄養要求量②	栄養基準について理解する
第13～14回目	栄養要求量③	ライフステージごとの栄養管理について理解する
第15～16回目	フードと栄養指導①	ペットフードの種類、分類、ラベル表示を理解し飼い主に説明できる
第17～18回目	フードと栄養指導②	中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる
第19～20回目	フードと栄養指導③	栄養状態の評価法について理解する
第21～22回目	フードと栄養指導④	肥満の弊害と減量プログラムの作成方法について理解する
第23～24回目	疾病と栄養	疾病ごとの食事療法と療法食の特徴や効果を理解し、説明できる
第25～26回目	強制給餌と栄養法①	強制給餌の方法と注意点について理解する
第27～28回目	強制給餌と栄養法②	経管栄養法の種類と特徴、方法について理解する
第29～30回目	強制給餌と栄養法③	静脈栄養法の種類と特徴、方法について理解する
第31～32回目	強制給餌と栄養法④	チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する
第33～34回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物病理学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 禎基	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物病理を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物病理学の基礎①	病理学とは、病理検査技術、病因
第2回目	動物病理学の基礎②	内因、外因（環境要因）
第3回目	傷害と細胞死①	代謝障害と変性、萎縮
第4回目	傷害と細胞死②	壊死とアポトーシス
第5回目	細胞や組織の修復と再生①	細胞増殖のメカニズム、細胞傷害に対する細胞の適応
第6回目	細胞や組織の修復と再生②	創傷の分類と病的損傷、組織、細胞の修復と再生
第7回目	循環障害①	血液の循環障害、組織液の循環障害
第8回目	循環障害②	ショック
第9回目	炎症①	炎症の定義、炎症の原因、炎症による形態的变化
第10回目	炎症②	炎症の分類、急性炎症と慢性炎症
第11回目	腫瘍①	腫瘍の定義、腫瘍の形態学的特徴
第12回目	腫瘍②	腫瘍の分類と命名、腫瘍の増殖
第13回目	腫瘍③	腫瘍の宿主への影響、腫瘍免疫、腫瘍の原因
第14回目	腫瘍④	腫瘍の発生メカニズム、腫瘍の種類
第15回目	先天異常①	遺伝子・染色体異常
第16回目	先天異常②	発生異常と奇形
第17回目	まとめ	復習、学期末試験対策

科目名	動物感染症学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	辻代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防、治療法など感染症対策の基礎と感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の栄養について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	免疫学の基礎と応用	免疫応答の異常（自己免疫性疾患・アレルギー）
第3～4回目	動物感染症①	病原体の感染経路と伝播様式、感染症の成立要因、生体防御機構
第5～6回目	動物感染症②	ワクチンの原理と種類、接種プログラム、感染症の治療薬について
第7～8回目	動物感染症③	感染症の制御・制圧、行政による感染症対策
第9～10回目	動物感染症④	犬と猫の感染症（ウイルス）
第11～12回目	動物感染症⑤	犬と猫の感染症（細菌）
第13～14回目	動物感染症⑥	産業動物の感染症（ウイルス病）
第15～16回目	動物感染症⑦	産業動物の感染症（細菌・真菌・プリオン病）
第17～18回目	動物感染症⑧	前期のまとめ
第19～20回目	動物感染症⑨	実験動物のモニタリング、微生物学的カテゴリー分離、ウイルス、細菌病
第21～22回目	動物感染症⑩	エキゾチックペットと野生動物の感染症（ウイルス・細菌・真菌）
第23～24回目	動物寄生虫学①	総論・原虫類
第25～26回目	動物寄生虫学②	蠕虫類（総論・線虫）
第27～28回目	動物寄生虫学③	蠕虫類（吸虫・条虫）
第29～30回目	動物寄生虫学④	衛生動物
第31～32回目	動物寄生虫学⑤	寄生虫検査法
第33～34回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物内科看護学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	投薬に関わる技術①	薬の処方、内服薬の使用法
第2回目	投薬に関わる技術②	薬剤の注射法
第3回目	投薬に関わる技術③	外用薬の使用法、薬浴の実施法
第4回目	投薬に関わる技術④	投薬前後の注意事項
第5回目	投薬に関わる技術⑤	投薬まとめ
第6回目	輸液に関わる技術①	輸液の適応とリスク、輸液計画
第7回目	輸液に関わる技術②	各種輸液剤の特性や適応
第8回目	輸液に関わる技術③	輸液中のモニタリング
第9回目	輸液に関わる技術④	輸液まとめ
第10回目	輸血に関わる技術①	輸血の適応とリスク
第11回目	輸血に関わる技術②	輸血計画、クロスマッチ試験と血液型
第12回目	輸血に関わる技術③	各種輸血製剤の適応や特性
第13回目	輸血に関わる技術④	輸血に関わる手技
第14回目	輸血に関わる技術⑤	輸血による副反応
第15回目	輸血に関わる技術⑥	輸血まとめ
第16回目	心電図と血圧に関わる技術①	心電図検査の目的と意義
第17回目	心電図と血圧に関わる技術②	心電図検査の実施方法

科目名	動物外科看護学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	外科器具①	一般的な手術器具と使用法（メス刃、剪刀、鑷子）
第2回目	外科器具②	一般的な手術器具と使用法（鉗子・持針器、リトラクター）
第3回目	外科器具③	整形外科器具とその使用法
第4回目	外科器具④	歯科器具の名称と使用法
第5回目	外科器具⑤	手術器具の手入れ方法とその維持管理
第6回目	外科器具⑥	手術器具の滅菌
第7回目	創傷管理と包帯法①	創傷の分類
第8回目	創傷管理と包帯法②	包帯法
第9回目	創傷管理と包帯法③	褥瘡の予防
第10回目	救命救急法①	生命徴候のアセスメント
第11回目	救命救急法②	保温、循環管理、保温、止血法、気管内挿管
第12回目	救命救急法③	心肺蘇生処置
第13回目	救命救急法④	その他の救急救命処置に関わる状態
第14回目	動物の機能回復①	基本的な活動性と動作能力
第15回目	動物の機能回復②	活動・運動能力に対する援助方法
第16回目	動物の機能回復③	リハビリテーションと動物の理学療法
第17回目	まとめ	前期復習、学期末試験対策

科目名	動物臨床看護学各論 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 義朗	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床検査学各論についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	徴候や病態の理解と対処①	代表的な兆候や病態、疾患について理解する 代表的な兆候と対処法、全身徴候とその援助
第3～4回目	徴候や病態の理解と対処②	特異的徴候とその援助
第5～6回目	徴候や病態の理解と対処③	特異的徴候とその援助、特異的病態
第7～8回目	呼吸器疾患①	呼吸器疾患とは、呼吸器疾患の診察・検査・治療
第9～10回目	呼吸器疾患②	代表的な呼吸器疾患、呼吸器疾患の動物看護
第11～12回目	循環器疾患①	循環器疾患とは、循環器疾患の診察・検査・治療
第13～14回目	循環器疾患②	代表的な循環器疾患、循環器疾患の動物看護
第15～16回目	消化器疾患①	消化器疾患とは、消化器疾患の診察・検査・治療
第17～18回目	消化器疾患②	代表的な消化器疾患、消化器疾患の動物看護
第19～20回目	内分泌疾患①	内分泌疾患とは、内分泌疾患の診察・検査・治療
第21～22回目	内分泌疾患②	代表的な内分泌疾患、内分泌疾患の動物看護
第23～24回目	血液・免疫介在性疾患①	血液疾患・免疫介在性疾患とは
第25～26回目	血液・免疫介在性疾患②	血液疾患・免疫介在性疾患の診察・検査・治療 代表的な血液疾患、免疫介在性疾患の動物看護
第27～28回目	血液・免疫介在性疾患③	代表的な血液疾患・免疫介在性疾患 血液疾患、免疫介在性疾患の動物看護
第29～30回目	皮膚疾患①	皮膚疾患とは、皮膚疾患の診察・検査・治療
第31～32回目	皮膚疾患②	代表的な皮膚疾患、皮膚疾患の動物看護
第33～34回目	まとめ	動物臨床看護学各論 I のまとめ

科目名	動物医療コミュニケーション		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮒 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物医療コミュニケーションを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	院内コミュニケーション①	飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する
第2回目	院内コミュニケーション②	獣医療面接のプロセスについて理解する
第3回目	院内コミュニケーション③	獣医療面接のプロセスについて理解する
第4回目	院内コミュニケーション④	チーム獣医療に関するコミュニケーション技能について理解する
第5回目	院内コミュニケーション⑤	チーム獣医療に関するコミュニケーション技能について理解する
第6回目	クライアント①	病気の適切な予防法について理解する
第7回目	クライアント②	病気の適切な予防法について理解する
第8回目	クライアント③	適正飼養について理解し、飼い主への適切な指導方法を学ぶ
第9回目	クライアント④	適正飼養について理解し、飼い主への適切な指導方法を学ぶ
第10回目	クライアント⑤	動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する
第11回目	クライアント⑥	在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する
第12回目	院内業務①	受付業務について理解する
第13回目	院内業務②	受付業務について理解する
第14回目	院内業務③	受付業務について理解する
第15回目	院内業務④	物品購入や管理について理解する
第16回目	院内業務⑤	ペット保険について理解する
第17回目	院内業務⑥	ペット保険について理解する

科目名	適正飼養指導論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	辻代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適正飼養指導論について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	愛玩動物の飼養①	愛玩動物適正飼養の目的、概念、現状を理解する
第3～4回目	愛玩動物の飼養②	愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する
第5～6回目	愛玩動物の飼養③	終末期の飼い主の心情と必要なケアを理解する
第7～8回目	愛玩動物の飼養④	グリーンケア、ペットロスについて理解する
第9～10回目	適正飼養の推進①	適正飼養の普及活動と動物取扱業者の適正飼養について理解する
第11～12回目	適正飼養の推進②	愛玩動物過剰繁殖の問題、対策について理解する
第13～14回目	適正飼養の推進③	適切な飼養方法としつけ、飼い主への指導事項と方法を理解する
第15～16回目	災害危機管理と支援①	災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる
第17～18回目	災害危機管理と支援②	愛玩動物と飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる
第19～20回目	災害危機管理と支援③	災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する
第21～22回目	動物愛護管理行政①	公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する
第23～24回目	動物愛護管理行政②	動物愛護週間の役割と実施状況について理解する
第25～26回目	動物愛護管理行政③	犬猫の引き取りと負傷動物等の収容、処分の状況を理解する
第27～28回目	動物愛護管理行政④	動物の事故内容と報告状況について理解する
第29～30回目	動物愛護管理行政⑤	動物愛護管理センターの活動と動物愛護推進員、協議会の役割について理解する
第31～32回目	動物愛護管理行政⑥	動物取扱責任者の選任条件と役割を理解する
第33～34回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	ペット関連産業概論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	全代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理、行動倫理を理解し、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業の責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ペット関連産業概論を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ペット関連産業における職業倫理①	責任と社会的役割を理解する（職業倫理）
第2回目	ペット関連産業における職業倫理②	商取引における関連法規の概要について理解する
第3回目	ペット関連産業における職業倫理③	商取引における関連法規の概要について理解する
第4回目	ペットの飼養実態と市場規模①	動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する
第5回目	ペットの飼養実態と市場規模②	ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する
第6回目	ペットの飼養実態と市場規模③	ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する
第7回目	各ペット関連産業の現状と課題①	ペット産業の分類・動物病院の現状について理解する
第8回目	各ペット関連産業の現状と課題②	動物病院以外のサービス業の現状について理解する
第9回目	動物取扱業①	動物取扱業制度の概要について理解する
第10回目	動物取扱業②	動物取扱責任者として必要な管理方法について理解する。
第11回目	動物取扱業③	動物取扱責任者として必要な管理方法について理解する。
第12回目	動物取扱業④	動物取扱責任者として必要な管理方法について理解する。
第13回目	動物取扱業⑤	動物取扱責任者として必要な管理方法について理解する。
第14回目	動物取扱業⑥	動物取扱責任者として必要な管理方法について理解する。
第15回目	動物取扱業⑦	5つの自由を満たす飼養管理について
第16回目	動物取扱業⑧	第一種動物取扱業の申請について
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物内科看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 禎基	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な動きを学ぶ実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	マイクロチップの装着①	マイクロチップの挿入部位と基礎知識
第2回目	マイクロチップの装着②	マイクロチップの装着手順、登録
第3回目	X線検査①	X線とは
第4回目	X線検査②	撮影目的に合った動物のポジショニング
第5回目	X線検査③	適切な現像と管理
第6回目	X線検査④	ポジショニング
第7回目	超音波検査①	超音波検査の仕組み
第8回目	超音波検査②	検査前の準備
第9回目	超音波検査③	超音波装置の取り扱い
第10回目	超音波検査④	CT検査
第11回目	超音波検査⑤	MRI検査
第12回目	心電図検査①	心電図の原理
第13回目	心電図検査②	心電図の取り扱いと操作
第14回目	心電図検査③	記録紙の見方
第15回目	心電図検査④	動物のポジショニング
第16回目	保定	さまざまな保定
第17回目	まとめ	まとめ、学期末試験対策

科目名	動物臨床検査学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	杵代 俊枝・岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	臨床検査学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版（エデュワードプレス）、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な動きを学ぶ実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	検体処理①	血液採取法、処理、保存法
第3～4回目	検体処理②	血液凝固剤の種類と特徴、尿採取法と保存法
第5～6回目	検体処理③	採便法と保存法、貯留液処理における採取法と保存法
第7～8回目	血液検査①	CBC検査、血液塗抹標本
第9～10回目	血液検査②	血液化学検査、輸血時のクロスマッチ
第11～12回目	血液検査③	住血寄生虫の検査法、免疫学的検査、凝固系検査
第13～14回目	尿検査①	物理学的性状検査
第15～16回目	尿検査②	化学的検査
第17～18回目	尿検査③	顕微鏡学的検査
第19～20回目	糞便検査①	物理学的性状検査
第21～22回目	糞便検査②	顕微鏡学的検査
第23～24回目	糞便検査③	簡易キットを用いた免疫学的検査
第25～26回目	細胞診①	病理検査における細胞診、検体の種類と採取法
第27～28回目	細胞診②	検体処理法、染色法、病理組織学的検査
第29～30回目	微生物学的検査①	細菌および真菌培養検査
第31～32回目	微生物学的検査②	細胞鑑別のための標本作製法
第33～34回目	微生物学的検査③、まとめ	基本的な菌の同定、まとめ、学期末試験対策

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 禎基	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻（エデュワードプレス）動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	麻酔・鎮痛①	麻酔薬
第2回目	麻酔・鎮痛②	鎮痛薬の関連法規
第3回目	麻酔・鎮痛③	麻酔薬、鎮痛薬の薬理効果
第4回目	麻酔モニタリング①	麻酔器の仕組み
第5回目	麻酔モニタリング②	モニター機器の仕組み
第6回目	麻酔モニタリング③	モニター数値
第7回目	麻酔モニタリング④	術中のバイタル評価
第8回目	麻酔モニタリング⑤	麻酔器
第9回目	麻酔モニタリング⑥	補助呼吸および人工呼吸器
第10回目	麻酔モニタリング⑦	麻酔記録
第11回目	手術実習①	手術準備
第12回目	手術実習②	去勢手術
第13回目	手術実習③	去勢手術
第14回目	手術実習④	手術準備
第15回目	手術実習⑤	避妊手術
第16回目	手術実習⑥	避妊手術
第17回目	まとめ	復習、学期末試験対策

科目名	動物臨床看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程の実践①	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第2回目	動物看護過程の実践②	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第3回目	動物看護過程の実践③	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第4回目	動物看護過程の実践④	看護動物の生活環境（家族を含む）が健康に及ぼす影響について考える
第5回目	動物看護過程の実践⑤	看護動物の生活環境（家族を含む）が健康に及ぼす影響について考える
第6回目	動物看護過程の実践⑥	症状や入院、治療が看護動物と家族に及ぼす影響について考える
第7回目	動物看護過程の実践⑦	症状や入院、治療が看護動物と家族に及ぼす影響について考える
第8回目	動物看護過程の実践⑧	看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付ける
第9回目	動物看護過程の実践⑨	看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付ける
第10回目	動物看護過程の実践⑩	看護動物の援助の内容、方法を立案できる
第11回目	動物看護過程の実践⑪	看護動物の援助の内容、方法を立案できる
第12回目	動物看護過程の実践⑫	看護動物の援助の内容、方法を立案できる
第13回目	動物看護過程の実践⑬	動物看護計画の作成
第14回目	動物看護過程の実践⑭	動物看護計画の作成
第15回目	動物看護過程の実践⑮	動物看護計画の作成
第16回目	動物看護過程の実践⑯	動物看護計画の作成
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物愛護・適正飼養実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の適正飼育を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な実習になるが、テーマによっては講義の機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物の基本的な扱い①	動物種に応じた安全なハンドリングができる
第3～4回目	動物の基本的な扱い②	動物種に応じた安全なハンドリングができる
第5～6回目	動物の基本的な扱い③	動物を安全に散歩・運動させることができる
第7～8回目	動物の基本的な扱い④	動物を安全に散歩・運動させることができる
第9～10回目	動物の基本的な扱い⑤	犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具を選択することができる
第11～12回目	動物の基本的な扱い⑥	犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具を選択することができる
第13～14回目	動物の基本的な扱い⑦	基本的なグルーミングを実施できる
第15～16回目	動物の基本的な扱い⑧	動物の飼養環境を適切に整備できる
第17～18回目	動物の基本的な扱い⑨	動物の飼養環境を適切に整備できる
第19～20回目	飼い主とのコミュニケーション①	犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる
第21～22回目	飼い主とのコミュニケーション②	動物の適切な飼養方法について指導できる
第23～24回目	飼い主とのコミュニケーション③	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について
第25～26回目	飼い主とのコミュニケーション④	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる
第27～28回目	飼い主とのコミュニケーション⑤	避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる
第29～30回目	動物愛護管理行政①	動物愛護管理センターの活動を理解する
第31～32回目	動物愛護管理行政②	動物取扱業へ指導すべき内容について理解する
第33～34回目	動物愛護管理行政③	動物取扱業における顧客等への対応について実践

科目名	動物看護総合実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	岩崎 美香（企業先）	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	座学での学びと実際の業務内容の結びつきを確認する。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	なし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物病院）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	30時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備
 - ・事前訪問予約
 - ・持ち物・実習の内容等確認
2. 実習（補助実習）
 - ・諸注意事項確認
 - ・実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
 - ・血液検査
 - ・尿検査
 - ・便検査
 - ・レントゲン検査の保定
 - ・エコー検査の保定
 - ・採血時の保定
 - ・入院室管理
 - など
3. 実習後指導
 - ・実習日誌まとめ提出
 - ・お礼状作成・送付
 - ・実習を通して得た課題の確認

科目名	グルーミング実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 田中 里恵 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 カットコース(全身バリカン・顔カット・部分カット・シャンプーコースを含む)を習得し精度を上げる。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。また、全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な動きを学ぶ実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～3回目	グルーミング⑪	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第4～6回目	グルーミング⑫	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第7～9回目	グルーミング⑬	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第10～12回目	グルーミング⑭	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第13～15回目	グルーミング⑮	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第16～18回目	グルーミング⑯	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第19～21回目	グルーミング⑰	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第22～24回目	グルーミング⑱	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第25～27回目	グルーミング⑲	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第28～30回目	グルーミング⑳	実習犬でのカット実習、シャンプー実習
第31～33回目	グルーミング㉑	実習犬でのカット実習、シャンプー実習
第34～36回目	グルーミング㉒	実習犬でのカット実習、シャンプー実習
第37～39回目	グルーミング㉓	実習犬でのカット実習、シャンプー実習
第40～42回目	グルーミング㉔	実習犬でのカット実習、シャンプー実習
第43～45回目	グルーミング㉕	実習犬でのカット実習、シャンプー実習

科目名	しつけトレーニング実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	川端 千賀子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭犬の正しい扱い方やトレーニングを通して、社会化の重要性と接し方について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬の行動観察、しつけの学習理論を学び、実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに関連するグッズ		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	復習	1年次の復習、犬が落ち着くと言う事
第2回目	犬の行動と学習理論	犬の行動観察、犬の学習方法について、褒めることについて学ぶ
第3回目	飼育環境に慣れさせる	新しい環境への順応の方法と実践
第4回目	人との生活に慣れさせる	仔犬との正しい接し方や、社会化トレーニングの重要性について、正しい犬の抱き方
第5回目	社会化トレーニング①	屋内で予想される身の回りの音や物に慣れさせる
第6回目	社会化トレーニング②	屋外で予想される身の回りの音や物に慣れさせる
第7回目	社会化トレーニング③	外出時や外出先で必要とされることへのトレーニングと対処方法
第8回目	問題行動①	問題行動とは、予防の重要性について知る
第9回目	問題行動②	問題行動の予防と対処に関するトレーニング
第10回目	問題行動③	問題行動の予防と対処に関するトレーニング
第11回目	身体ケアへのアプローチ方法	触られることに慣れさせるべき理由と、その重要性について
第12回目	グルーミングトレーニング①	足の周り、口周り、耳周りなどのケアのトレーニング
第13回目	グルーミングトレーニング②	足の周り、口周り、耳周りなどのケアのトレーニング
第14回目	まとめ①	総復習
第15回目	まとめ②	総復習

科目名	検定対策Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各種検定の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ペットフード/ペットマナー①	検定に関する基礎知識の習得
第2回目	ペットフード/ペットマナー②	検定に関する基礎知識の習得
第3回目	ペットフード/ペットマナー③	検定に関する基礎知識の習得
第4回目	ペットフード/ペットマナー④	過去問題を使った復習
第5回目	ペットフード/ペットマナー⑤	過去問題を使った復習
第6回目	ペットフード/ペットマナー⑥	総合演習
第7回目	ペットフード/ペットマナー⑦	総合演習
第8回目	ペットフード/ペットマナー⑧	総合演習
第9回目	ペット栄養学①	ペット栄養学の基礎知識を習得
第10回目	ペット栄養学②	ペット栄養学の基礎知識を習得
第11回目	ペット栄養学③	ペット栄養学の基礎知識を習得
第12回目	ペット栄養学④	ペット栄養学の基礎知識を習得
第13回目	ペット栄養学⑤	ペット栄養学の基礎知識を習得、復習
第14回目	ペット栄養学⑥	ペット栄養学の基礎知識を習得、復習
第15回目	ペット栄養学⑦	総合演習

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	面接対策や企業選択の方法などを学び、就職活動をより意識して対策を実施する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適切な企業選択と社会人としてのマナーを身に付けて就職活動に備える		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各種提出物の提出状況や内容等によって判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	面接対策①	面接時の注意点、面接指導
第2回目	面接対策②	面接時の注意点、面接指導
第3回目	電話対策①	電話のかけ方、話し方
第4回目	電話対策②	電話のかけ方、話し方
第5回目	美文字練習①	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第6回目	美文字練習②	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第7回目	傾聴術①	傾聴について理解
第8回目	傾聴術②	傾聴実践
第9回目	コミュニケーション①	コミュニケーションについて学ぶ
第10回目	コミュニケーション②	コミュニケーション実践
第11回目	企業の選び方	企業の選定方法、企業研究について
第12回目	企業研究①	就職を視野に入れている企業について調べる
第13回目	企業研究②	就職活動のための書類を準備する
第14回目	心理学①	人の心のつかみ方
第15回目	心理学②	好かれる人になるには

科目名	特別課外授業		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	—	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	学校行事、ボランティア活動を通じて個々の成長、経験に繋げ人間力の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	コミュニケーション能力向上・社会経験を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各行事の出席状況・積極性により認定する。		
履修に当たっての留意点	各行事の目的を理解し、各々の成長に繋がるよう積極的に参加すること。		

授 業 計 画 内 容

- 出席認定基準
1日の出席を0.5と換算。4日分以上の出席で認定とする。
- 主な行事一覧
 - ・体験学習
 - ・学園祭（準備期間含む）
 - ・国内研修旅行
 - ・飼育セミナー
 - ・フィールドワーク
 - ・スポーツフェスティバル
 - ・その他、学校が認める行事及び各種ボランティア
- 行事運営の流れ
 - ・目的の確認
 - ・事前準備
 - ・行事参加
 - ・振り返り（感想、次回への引継ぎ事項等）

科目名	エキゾチックアニマル学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	山崎 陽平 新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	エキゾチックアニマルの種類や飼養方法、病気などについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	エキゾチックアニマルを適正に扱うことができる知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	カラーアトラス エキゾチックアニマル哺乳類編 第3版/配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	爬虫類・両生類とは	爬虫両生類学とは、爬虫類・両生類の違い
第3～4回目	繁殖	脊椎動物の系統、両生類の繁殖・爬虫類の繁殖
第5～6回目	分類・分布	種とは、隔離と種分化、学名・動物地理区、分布境界線
第7～8回目	形態・生態	カエル・ヘビ・カメの形態・食性・体温調節、活動パターン
第9～10回目	法律・条例・条約	爬虫類・両生類に関する法律・条例・条約
第11～12回目	捕食者と防御	捕食者と被食者、防御行動、有毒種
第13～14回目	ペットトレードと問題点	絶滅と絶滅危惧種、捕獲採集圧
第15～16回目	外来種	外来種とは・外来種による影響、国内外の外来種問題
第17～18回目	ハムスター	品種、生態、飼育方法、病気
第19～20回目	モルモット・デグー	品種、生態、飼育方法、病気
第21～22回目	シマリス・ジリス	品種、生態、飼育方法、病気
第23～24回目	チンチラ・フクロモモンガ	品種、生態、飼育方法、病気
第25～26回目	ウサギ	品種、生態、飼育方法、病気
第27～28回目	フェレット	品種、生態、飼育方法、病気
第29～30回目	まとめ	総括

科目名	動物行動学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物の基礎的な行動学を学び、動物園でのトレーニング方法も学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物園でのトレーニング方法を理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	飼育ハンドブック、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基本概念	行動学の発展と研究、行動の進化と適応
第2回目	維持行動	維持行動の意味と効果
第3回目	社会化①	群れの社会行動、生殖行動
第4回目	社会化②	コミュニケーション行動、敵対行動・親和的行動
第5回目	行動の発現	動機付けと行動の制御
第6回目	行動の発達と学習①	行動の発達、遺伝的要因・環境要因
第7回目	行動の発達と学習②	馴化と感作、古典的条件付け・オペラント条件付け
第8回目	トレーニング①	動物園でのトレーニング
第9回目	トレーニング②	ゾウ
第10回目	トレーニング③	ゾウの準間接飼育におけるトレーニング
第11回目	トレーニング④	トリ
第12回目	トレーニング⑤	オランウータン
第13回目	トレーニング⑥	ゴリラ
第14回目	行動分析	行動分析とハズバンダリートレーニング
第15回目	まとめ	まとめ

科目名	動物感染症学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	湊 和之	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学び、動物感染症の理解を深める。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	序論・ウイルス学総論・細菌学総論	感染症等の歴史、ウイルス・細菌の分類・大きさや構造・増殖・伝搬等
第2回目	真菌学総論・プリオン総論	真菌の分類・大きさや構造・増殖・伝搬等、異常プリオン
第3回目	感染防御	ワクチン、抗ウイルス薬と抗菌薬、動物感染症対策
第4回目	感染症学各論①	犬猫の感染症(ウイルス)
第5回目	感染症学各論②	犬猫の感染症(ウイルス)
第6回目	感染症学各論③	犬猫の感染症(細菌・真菌)
第7回目	感染症学各論④	産業動物の感染症(ウイルス)
第8回目	感染症学各論⑤	産業動物の感染症(細菌・真菌・プリオン)
第9回目	感染症学各論⑥	実験動物・エキゾチックアニマルの感染症(ウイルス・細菌・真菌)
第10回目	寄生虫学総論①	歴史、寄生虫・宿主との相互関係、生活環と生殖法、感染経路等
第11回目	寄生虫学総論② 原虫類	人獣共通感染症、寄生虫症の治療と看護・ケアおよび予防対策等
第12回目	蠕虫類①	蠕虫類総論・線虫類
第13回目	蠕虫類②	線虫類・吸虫類
第14回目	蠕虫類③・衛生動物①	条虫類・衛生動物総論
第15回目	衛生動物②	ダニ類、ノミ類、シラミ・ハジラミ類等

科目名	動物基礎栄養学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、動物園での飼料について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を理解し、動物園にいる動物たちの飼料選択、種類ごとの給餌方法を現場で安全に実践できるようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック 動物園編 1 他		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎栄養学	五大栄養素、六大栄養素について
第2回目	飼料	飼料管理、栄養管理、栄養がもたらす障害、評価方法
第3回目	犬の飼料	犬の飼料
第4回目	猫の飼料	猫の飼料
第5回目	サル類の飼料	サル類の飼料、注意点、栄養疾患
第6回目	肉食獣の飼料①	肉食獣の飼料、生き餌、栄養要求
第7回目	肉食獣の飼料②	栄養疾患、障害
第8回目	草食獣の飼料①	草食獣の消化器官の特徴、種類
第9回目	草食獣の飼料②	飼料の配合
第10回目	雑食獣の飼料①	雑食獣の食性、飼料、栄養管理、栄養疾患
第11回目	雑食獣の飼料②	栄養管理、栄養疾患
第12回目	鳥類の飼料	鳥類の給餌上の留意点
第13回目	爬虫類の飼料	カメ、ワニ、トカゲ、ヘビの飼料
第14回目	両生類の飼料	両生類の飼料の種類と入手方法、給餌方法
第15回目	昆虫の飼料	昆虫の食性、飼料、飼育の実際

科目名	飼育健康管理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	生態にあった飼育環境を学び、飼育管理を通して生体の健康と福祉について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	種別での生態を把握し、正しく飼育出来るようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新飼育ハンドブック 動物園編		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	適切な飼育環境の実現①	適切な飼育・展示、動物生態の理解
第3～4回目	適切な飼育環境の実現②	動物生態の理解、動物の福祉
第5～6回目	展示	動物の構成からみた展示（展示技法、哺乳類・鳥類の展示）
第7～8回目	環境エンリッチメント①	環境総論、展示とエンリッチメント、留意点、繁殖
第9～10回目	環境エンリッチメント②	鳥類の環境エンリッチメント、繁殖
第11～12回目	環境エンリッチメント③	有袋類の環境エンリッチメント、繁殖
第13～14回目	環境エンリッチメント④	小型肉食目の環境エンリッチメント
第15～16回目	環境エンリッチメント⑤	大型食肉目の環境エンリッチメント、繁殖（肉食獣）
第17～18回目	環境エンリッチメント⑥	霊長類の環境エンリッチメント、繁殖（サル）
第19～20回目	環境エンリッチメント⑦	有蹄類の環境エンリッチメント、繁殖（草食獣）
第21～22回目	環境エンリッチメント⑧	齧歯類、その他の小型哺乳類
第23～24回目	輸送①	総論
第25～26回目	輸送②	鳥類・爬虫類・両生類の捕獲・保定
第27～28回目	輸送③	哺乳類の捕獲・保定
第29～30回目	展示と解説	解説の重要性、解説手法

科目名	自然環境保護		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	坂庭 浩之	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	自然環境について学び保護活動や現状を知る。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	自然環境から生態系などを学び動物園や飼育に活かす。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料 等		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	自然環境①	世界の現状を知る
第2回目	自然環境②	地形・天候・自然環境の歴史、成り立ち
第3回目	自然環境③	生態系、生物多様性
第4回目	自然環境④	植物、植生について知る
第5回目	保全・保護①	深刻化する様々な環境問題
第6回目	保全・保護②	自然環境に関わる法制度
第7回目	保全・保護③	野生動植物に関わる法制度
第8回目	保全・保護④	種の保存法、レッドデータブック
第9回目	保全・保護⑤	保護活動や問題点、課題
第10回目	ヒトと環境①	環境保全について考える
第11回目	ヒトと環境②	ヒトと環境の相互作用の歴史
第12回目	ヒトと環境③	SDG'sや今後の課題について考える
第13回目	総括①	まとめ
第14回目	総括②	まとめ
第15回目	総括③	まとめ

科目名	アクアリウム演習		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	魚の種類別飼育管理方法や、魚の病気、飼育用品について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	種類別での飼育管理方法を理解し、適切な飼育方法を説明、実施できるようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	飼育管理室の魚コーナー		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	実習時にはふさわしい身だしなみであること。また外出することが出てくるため、外出先での迷惑な行為は行わない。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	アクアリウム	アクアリウムとは
第2回目	種類	海水魚、汽水魚、淡水魚の違い
第3回目	飼育①	淡水魚の飼育方法
第4回目	飼育②	海水魚の飼育方法
第5回目	受け入れ①	水槽の立ち上げ方、準備、構想づくり
第6回目	受け入れ②	実際に水槽内へ魚を入れる
第7回目	受け入れ③	経過観察と飼育説明書の作成
第8回目	水草	水草の効果と魚に合った水草の選定
第9回目	水草の水槽	水草の水槽づくり
第10回目	病気	魚の病気の対処と薬の種類
第11回目	混合①	魚の組み合わせ方と相性
第12回目	混合②	混合水槽の計画を立てる
第13回目	水槽掃除	水槽掃除の仕方、魚のパッキング方法
第14回目	混合③	混合水槽の実践
第15回目	混合④	混合水槽の経過報告と飼育説明

科目名	環境教育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	情操教育を通して動物園の役割を再認識し、運営できる知識を身に付ける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	グループで計画したプチ動物園の流れを理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	実際に運営することになった際は、事故防止対策のこともしっかり考え対策する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	教育①	環境教育について
第2回目	教育②	動物園で行う教育
第3回目	教育③	自然教育、環境教育
第4回目	教育④	情操教育、生体を使った教育
第5回目	教育⑤	教育対象、ガイド活動、学習会
第6回目	教育⑥	子ども動物園
第7回目	教育⑦	子ども動物園
第8回目	実践①	環境教育の一例
第9回目	実践②	環境教育の一例
第10回目	実践③	環境教育の一例
第11回目	実践④	環境教育の一例
第12回目	実践⑤	環境教育の一例
第13回目	実践⑥	実践
第14回目	実践⑦	実践
第15回目	実践⑧	実践

科目名	動物園学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	展示の目的や動物種ごとの分類、生理、生態などを学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、動物福祉に係る知識習得を図る。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種・目的ごとに異なる知識を学び、水族業界で即戦力となれる知識を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック動物園編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	概論①	動物園の機能・動物園水族館協会について
第3～4回目	概論②	動物園に関する法令
第5～6回目	展示①	展示計画と実施
第7～8回目	展示②	展示技法
第9～10回目	展示③	展示と解説
第11～12回目	生理①	哺乳類・鳥類の生理
第13～14回目	生理②	哺乳類・鳥類の生理
第15～16回目	生理③	両生類・爬虫類の生理
第17～18回目	生理④	両生類・爬虫類の生理
第19～20回目	トレーニング①	動物園におけるトレーニング・ハズバンダリートレーニング
第21～22回目	トレーニング②	動物園におけるトレーニング・ハズバンダリートレーニング
第23～24回目	トレーニング③	動物園におけるトレーニング・ハズバンダリートレーニング
第25～26回目	保存	総論・遺伝的管理
第27～28回目	病気	共通感染症・動物対策
第29～30回目	総括	まとめ

科目名	水族館学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	水族館の機能、展示の目的を学ぶ。また、その展示技法やトレーニング、非生体資料の展示についても理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種・目的ごとに異なる知識を学び、水族業界で即戦力となれる知識を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック水族館編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	概論	動物園・水族館とは
第3～4回目	教育①	水族館における教育、総論
第5～6回目	教育②	教育内容
第7～8回目	展示①	総論、展示技法
第9～10回目	展示②	海生哺乳類の展示
第11～12回目	展示③	海生鳥類、爬虫類、両生類の展示
第13～14回目	展示④	魚類の展示
第15～16回目	展示⑤	魚類の展示、展示場を考える
第17～18回目	輸送①	魚類
第19～20回目	輸送②	海生哺乳類
第21～22回目	収集	総論、魚類、海生哺乳類の収集
第23～24回目	トレーニング①	総論、基礎
第25～26回目	トレーニング②	ハズバンダリートレーニングについて
第27～28回目	トレーニング③	動物との関係
第29～30回目	総括	まとめ

科目名	畜産学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小淵 裕子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	1年次での家畜飼育学を基礎に、復習をしつつ家畜飼育ではなく畜産業について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	畜産について正しく学び、畜産業の取り組みについても学ぶ。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	畜産業	畜産の役割
第3～4回目	飼料①	飼料の生産と利用
第5～6回目	飼料②	飼料の生産と利用
第7～8回目	家畜の生理・生態・飼育環境①	家畜の生理・生態
第9～10回目	家畜の生理・生態・飼育環境②	家畜の繁殖
第11～12回目	家畜飼育の実際①	養鶏
第13～14回目	家畜飼育の実際②	養鶏
第15～16回目	家畜飼育の実際③	養豚
第17～18回目	家畜飼育の実際④	養豚
第19～20回目	家畜飼育の実際⑤	酪農
第21～22回目	家畜飼育の実際⑥	酪農
第23～24回目	家畜飼育の実際⑦	ウマ、ヤギ、メンヨウなど
第25～26回目	畜産経営と情報利用①	畜産における情報
第27～28回目	畜産経営と情報利用②	生産管理での利用
第29～30回目	まとめ	まとめ

科目名	校外飼育実習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	120時間	年間取得単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	吉田 卓史（実習先）	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場での実習を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	動物飼育員として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物企業において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物企業）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	15日間で120時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・ 事前訪問予約
- ・ 持ち物・実習の内容等確認

2. 実習（実務型実習）

- ・ 諸注意事項確認
- ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
- ・ 清掃
- ・ 給餌
- ・ 生体管理

3. 実習後指導

- ・ 実習日誌まとめ提出
- ・ お礼状

科目名	しつけトレーニング実習		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	川端 千賀子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭犬の正しい扱い方やトレーニングを通して、社会化の重要性と接し方について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬の行動観察、しつけの学習理論を学び、実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニングに関連するグッズ		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1～第2回目	犬の扱い方／犬の行動と学習	犬の行動観察、犬の学習方法について、褒めることについて学ぶ
第3～第4回目	環境や人に慣れさせる	新しい飼育環境や、人との生活に必要なトレーニングの実施と仔犬の正しい接し方
第5～第6回目	社会化トレーニング①	屋内や屋外で予想される刺激に慣れる
第7～第8回目	社会化トレーニング②	外出時や外出先で必要とされることへのトレーニングと対処法
第9～第10回目	問題行動	問題行動とは、予防と対処に関するトレーニング
第11～第12回目	グルーミングトレーニング	触れられることに慣れさせる、足周り、口周り、耳周りなどのケア
第13～第14回目	状況の確認	現段階での犬の状況の確認と発表
第15～第16回目	散歩トレーニング①	目的別の散歩と、近くに居ることに慣れさせる、横につけて歩くトレーニング
第17～第18回目	散歩トレーニング②	散歩での行動観察、指示の出し方、歩かせ方
第19～第20回目	リラックス方法	リラックスをすると言う事、落ち着いている犬の状態を知る
第21～第22回目	遊び	犬との遊び方、遊びの種類や方法、個体の違いについて知る
第23～第24回目	基礎トレーニング①	誘導の方法、座る、伏せる、立つの行動を起こす方法
第25～第26回目	基礎トレーニング②	言葉と行動の関連付け、言葉で試す
第27～第28回目	まとめ①	1年間のまとめ
第29～第30回目	まとめ②	1年間のまとめ

科目名	動物総合実習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	180時間	年間取得単位数	6単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	吉田 卓史（実習先）	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場での実習を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	動物飼育員として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物企業において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物企業）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	年間で180時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・ 事前訪問予約
- ・ 持ち物・実習の内容等確認

2. 実習（実務型実習）

- ・ 諸注意事項確認
- ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
- ・ 清掃
- ・ 給餌
- ・ 生体管理

3. 実習後指導

- ・ 実習日誌まとめ提出
- ・ お礼状

科目名	検定対策Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	生物分類技能検定3級①	分類、形態、生態に関する問題（哺乳類）
第3～4回目	生物分類技能検定3級②	分類、形態、生態に関する問題（爬虫類）
第5～6回目	生物分類技能検定3級③	分類、形態、生態に関する問題（昆虫）
第7～8回目	生物分類技能検定3級④	分類、形態、生態に関する問題（植物）
第9～10回目	生物分類技能検定3級⑤	分類、形態、生態に関する問題（植物）
第11～12回目	生物分類技能検定3級⑥	生物の一般問題
第13～14回目	生物分類技能検定3級⑦	生物の一般問題
第15～16回目	生物分類技能検定3級⑧	生物の一般問題
第17～18回目	飼育管理士検定①	問題演習
第19～20回目	飼育管理士検定②	問題演習
第21～22回目	飼育管理士検定③	問題演習
第23～24回目	飼育管理士検定④	問題演習
第25～26回目	飼育管理士検定⑤	問題演習
第27～28回目	飼育管理士検定⑥	問題演習
第29～30回目	飼育管理士検定⑦	まとめ

科目名	就職実務Ⅲ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各種提出物の提出状況や内容等によって判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	自己分析	1年次の経験を踏まえ自己を分析し、整理する
第2回目	履歴書①	履歴書の新規作成
第3回目	履歴書②	履歴書作成
第4回目	企業研究①	企業、業界を調べる
第5回目	企業研究②	企業、業界を調べる
第6回目	面接①	模擬集団面接
第7回目	面接②	模擬集団面接
第8回目	面接③	模擬個人面接
第9回目	面接④	模擬個人面接
第10回目	一般教養①	就職試験に必要な一般教養を身に着ける
第11回目	一般教養②	就職試験に必要な一般教養を身に着ける
第12回目	一般教養③	就職試験に必要な一般教養を身に着ける
第13回目	一般教養④	就職試験に必要な一般教養を身に着ける
第14回目	一般教養⑤	就職試験に必要な一般教養を身に着ける
第15回目	総括	まとめ

科目名	スポーツトレーニング実践		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	腹筋、背筋などの筋力トレーニングから、ランなどの有酸素運動で持久力を上げる。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	大型動物を扱うための筋力・体力の向上。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	運動のしやすい服装（ジャージ）であること。体育館、公園、山への外出。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	新体力テスト	現在の基礎体力を測定する
第3～4回目	筋力・体力向上①	腹筋、背筋、腕立て、スクワット等
第5～6回目	筋力・体力向上②	屋外ウォーク、ランニング
第7～8回目	筋力・体力向上③	屋外での実施
第9～10回目	筋力・体力向上④	ドッジボール、縄跳び、長縄飛び等
第11～12回目	筋力・体力向上⑤	プランク、ダンス等
第13～14回目	筋力・体力向上⑥	ゲームで体力づくり
第15～16回目	筋力・体力向上⑦	登山
第17～18回目	筋力・体力向上⑧	登山
第19～20回目	筋力・体力向上⑨	楽しくストレッチを学ぶ
第21～22回目	筋力・体力向上⑩	屋内スポーツ
第23～24回目	筋力・体力向上⑪	屋内ゲーム
第25～26回目	筋力・体力向上⑫	屋外ゲーム
第27～28回目	筋力・体力向上⑬	レクリエーション
第29～30回目	最終体力テスト	1年間を通して基礎体力の差を見る

科目名	特別課外授業		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	—	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員		実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	学校行事、ボランティア活動を通じて個々の成長、経験に繋げ人間力の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	コミュニケーション能力向上・社会経験を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各行事の出席状況・積極性により認定する。		
履修に当たっての留意点	各行事の目的を理解し、各々の成長に繋がるよう積極的に参加すること。		

授業計画
<p>1. 出席認定基準 1日の出席を6時間とし、10日以上出席で単位認定とする。</p> <p>2. 主な行事一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習 ・学園祭（準備期間含む） ・国内研修旅行 ・飼育セミナー ・フィールドワーク ・スポーツフェスティバル ・その他、学校が認める行事及び各種ボランティア <p>3. 行事運営の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的の確認 ・事前準備 ・行事参加 ・振り返り（感想、次回への引継ぎ事項等）

科目名	ペットエステ・美容学Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットグルーミング、ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定1級の合格を目指す。 ペットエステティック国際協会ジャパン資格シルバー・ゴールドの合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシックテクニック(緑書房)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウィネット)PEIA教本(ブロンズ、シルバー、ゴールド)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	ショップにおける基本	受付、接客対応について
第3～4回目	ペットエステティック⑥	アロマセラピー、マッサージコース
第5～6回目	ペットエステティック⑦	ビビットカラー
第7～8回目	ペットエステティック⑧	ペットのためのアンチエイジングコース、カラーレストレーション
第9～10回目	ペットカット基本①	基本スタイル、デディベアカット
第11～12回目	ペットカット基本②	基本スタイル、デディベアカット
第13～14回目	ペットカット応用	応用スタイル、その他のペットカット
第15～16回目	ショー・クリップ①	プードルのショークリップについて
第17～18回目	ショー・クリップ②	犬種別ショークリップについて
第19～20回目	図解・犬種別の応用①	ビション・フリーゼ
第21～22回目	図解・犬種別の応用②	アメリカン・コッカー・スパニエル
第23～24回目	図解・犬種別の応用③	ミニチュアシュナウザー
第25～26回目	図解・犬種別の応用④	ポメラニアン
第27～28回目	図解・犬種別の応用⑤	シェットランド・シープドッグ
第29～30回目	図解・犬種別の応用⑥	犬種別応用まとめ

科目名	ペットエステ・美容学Ⅳ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットグルーミング、ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定1級の合格を目指す。 ペットエステティック国際協会ジャパン資格シルバー・ゴールドの合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシックテクニック(緑書房)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウィネット)PEIA教本(ブロンズ、シルバー、ゴールド)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	ペットエステティック⑨	ペットマッサージ概論
第3～4回目	ペットエステティック⑩	東洋医学理論
第5～6回目	ペットエステティック⑪	基礎解剖学
第7～8回目	ペットエステティック⑫	ペットマッサージ
第9～10回目	ペットエステティック⑬	4大リンパマッサージ
第11～12回目	ペットエステティック⑭	各部のマッサージと技法
第13～14回目	ペットエステティック⑮	各部のマッサージと技法
第15～16回目	ペットエステティック⑯	各部のマッサージと技法
第17～18回目	ラムクリップ⑪	ラムクリップのアウトライン、バランス復習
第19～20回目	ラムクリップ⑫	ラムクリップのアウトライン、バランス復習
第21～22回目	ラムクリップ⑬	ラムクリップのアウトライン、バランス復習
第23～24回目	ラムクリップ⑭	ラムクリップまとめ
第25～26回目	ラムクリップ⑮	ラムクリップまとめ
第27～28回目	ラムクリップ⑯	ラムクリップまとめ
第29～30回目	ラムクリップ⑰	ラムクリップまとめ

科目名	グルーミング実習Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 田中 里恵 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 カットコース(全身バリカン・顔カット・部分カット・シャンプーコースを含む)を習得し精度を上げる。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシック・テクニック(緑書房)トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	グルーミング応用①	トリミング練習(ペットカット含む)
第9～16回目	グルーミング応用②	トリミング練習(ペットカット含む)
第17～24回目	グルーミング応用③	トリミング練習(ペットカット含む)
第25～32回目	グルーミング応用④	トリミング練習(ペットカット含む)
第33～40回目	グルーミング応用⑤	トリミング練習(ペットカット含む)
第41～48回目	グルーミング応用⑥	トリミング練習(ペットカット含む)
第49～56回目	グルーミング応用⑦	トリミング練習(ペットカット含む)
第56～64回目	グルーミング応用⑧	トリミング練習(ペットカット含む)
第65～72回目	グルーミング応用⑨	トリミング練習(ペットカット含む)
第73～80回目	グルーミング応用⑩	トリミング練習(ペットカット含む)
第81～88回目	グルーミング応用⑪	トリミング練習(ペットカット含む)
第89～96回目	グルーミング応用⑫	トリミング練習(ペットカット含む)
第97～104回目	グルーミング応用⑬	トリミング練習(ペットカット含む)
第105～112回目	グルーミング応用⑭	トリミング練習(ペットカット含む)
第113～120回目	グルーミング応用⑮	トリミング練習(ペットカット含む)

科目名	グルーミング実習Ⅳ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	270時間	年間取得単位数	9単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 田中 里恵 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 カットコース(全身バリカン・顔カット・部分カット・シャンプーコースを含む)を習得し精度を上げる。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシック・テクニク(緑書房)トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～9回目	グルーミング応用⑯	トリミング練習(ペットカット含む)
第10～18回目	グルーミング応用⑰	トリミング練習(ペットカット含む)
第19～27回目	グルーミング応用⑱	トリミング練習(ペットカット含む)
第28～36回目	グルーミング応用⑲	トリミング練習(ペットカット含む)
第37～45回目	グルーミング応用⑳	トリミング練習(ペットカット含む)
第46～54回目	グルーミングまとめ①	グルーミング実習
第55～63回目	グルーミングまとめ②	グルーミング実習
第64～72回目	グルーミングまとめ③	グルーミング実習
第73～81回目	グルーミングまとめ④	グルーミング実習
第82～90回目	グルーミングまとめ⑤	グルーミング実習
第91～99回目	グルーミングまとめ⑥	グルーミング実習
第100～108回目	グルーミングまとめ⑦	グルーミング実習
第109～117回目	グルーミングまとめ⑧	グルーミング実習
第118～126回目	グルーミングまとめ⑨	グルーミング実習
第127～135回目	グルーミングまとめ⑩	グルーミング実習

科目名	動物飼育管理実習Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物の飼育管理を実際に行うことで、動物の正しい扱い方や適正な飼養管理について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物に関連した物など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	実習時には、動物を扱うにふさわしい身だしなみ。屋外での実習もあるため、周りの迷惑にならないよう注意する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	犬の管理①	生体管理の実施と必要性について学び、伝える
第2回目	犬の管理②	生体管理の実施と必要性について学び、伝える
第3回目	仔犬という生き物①	仔犬と成犬の違いと、必要なトレーニングについて知る
第4回目	仔犬という生き物②	仔犬と成犬の違いと、必要なトレーニングについて知る
第5回目	社会化①	犬と生活するために必要な社会化について学ぶ
第6回目	社会化②	学校犬として必要な社会化について学ぶ
第7回目	マナーについて学ぶ①	散歩での必要なマナー
第8回目	マナーについて学ぶ②	ドッグランでの必要なマナー
第9回目	飼育管理室の現状	現状について学び、改善策を見つける
第10回目	実習備品	実習備品の帳簿を作成し、備品管理に生かす
第11回目	協働①	チームプレイについて学び、必要なコミュニケーション能力を身に付ける
第12回目	協働②	チームプレイについて学び、必要なコミュニケーション能力を身に付ける
第13回目	効率化①	効率よく作業を進めるために必要な事
第14回目	効率化②	効率よく作業を進めるために必要な事
第15回目	まとめ	動物の飼育管理とはなにか

科目名	動物美容総合実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	120時間	年間取得単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	赤坂 成美（実習先）	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	現場実習を通じてトリマーとしての自身の在り方や方向性を考える。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	トリマーとして必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた企業において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物企業）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	120時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・ 事前訪問予約
- ・ 持ち物・実習の内容等確認

2. 実習（実務型実習）

- ・ 諸注意事項確認
- ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
- ・ 清掃
- ・ グルーミング業務

3. 実習後指導

- ・ 実習日誌まとめ提出
- ・ お礼状

科目名	校外美容実習		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	校外での動物美容に関する学びを体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、ボランティアの企画運営や特別講義受講など様々な経験を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物美容学科として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めたボランティア活動への参加(企画・運営)、ドッグショー見学、その他講義の受講などの参加及びレポートの提出をもって評価する。		
履修に当たっての留意点	年間で30時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

動物関連施設から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 出席認定基準

各行事、講義への出席を以下の時間で換算し、合計30時間の出席で認定とする。

- ・ボランティア 6時間×2日間
- ・ドッグショー見学 8時間
- ・缺の講義 1時間30分
- ・ボランティア企画・準備 1時間30分×8コマ

2. 運営の流れ

- ・目的の確認
- ・事前準備(ボランティアの企画・運営含む)

3. 実習後指導

- ・レポート提出

科目名	検定対策Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各種検定の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、問題集など		
成績評価の方法・基準	授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ペットフードマナー検定①	ペットフードについて
第2回目	ペットフードマナー検定②	ペットフードについて
第3回目	ペットフードマナー検定③	ペットフードについて
第4回目	PEIA①	認定試験対策
第5回目	PEIA②	認定試験対策
第6回目	PEIA③	認定試験対策
第7回目	PEIA④	認定試験対策
第8回目	動物健康衛生管理士①	動物健康衛生管理士級定対策
第9回目	動物健康衛生管理士②	動物健康衛生管理士級定対策
第10回目	動物健康衛生管理士③	動物健康衛生管理士級定対策
第11回目	動物健康衛生管理士④	動物健康衛生管理士級定対策
第12回目	動物健康衛生管理士⑤	動物健康衛生管理士級定対策
第13回目	サロントリマー検定①	1級検定対策
第14回目	サロントリマー検定②	1級検定対策
第15回目	サロントリマー検定③	1級検定対策

科目名	就職実務Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	インターンシップ振り返り	インターンシップ実習を振り返り発表
第2回目	企業研究①	就職希望の企業を研究
第3回目	企業研究②	就職希望の企業を研究
第4回目	企業研究③	就職希望の企業を研究
第5回目	企業研究④	就職希望の企業を研究
第6回目	企業研究⑤	就職希望の企業を研究
第7回目	履歴書①	履歴書の内容確認
第8回目	履歴書②	履歴書の作成
第9回目	履歴書③	履歴書の作成
第10回目	履歴書④	履歴書の作成
第11回目	履歴書⑤	履歴書の作成
第12回目	面接練習①	模擬面接、就活対策
第13回目	面接練習②	模擬面接、就活対策
第14回目	面接練習③	模擬面接、就活対策
第15回目	面接練習④	模擬面接、就活対策

科目名	特別課外授業		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	—	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	学校行事、ボランティア活動を通じて個々の成長、経験に繋げ人間力の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	コミュニケーション能力向上・社会経験を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各行事の出席状況・積極性により認定する。		
履修に当たっての留意点	各行事の目的を理解し、各々の成長に繋がるよう積極的に参加すること。		

授 業 計 画 内 容

1. 出席認定基準
1日の出席を0.5と換算。4日分以上の出席で認定とする。
2. 主な行事一覧
 - ・体験学習
 - ・学園祭（準備期間含む）
 - ・国内研修旅行
 - ・飼育セミナー
 - ・フィールドワーク
 - ・スポーツフェスティバル
 - ・その他、学校が認める行事及び各種ボランティア
3. 行事運営の流れ
 - ・目的の確認
 - ・事前準備
 - ・行事参加
 - ・振り返り（感想、次回への引継ぎ事項等）

講義概要

SYLABUS 2025

《3 学年》



学校法人 有坂中央学園

CAN 中央動物看護専門学校

目 次

学園の沿革	-----	1
教育基本方針	-----	2
各種検定一覧	-----	3
履修科目一覧	-----	4
実務経験のある教員による授業科目一覧	-----	5
講義概要	-----	6
・ 動物看護学科 愛玩動物看護師専攻		

学園の沿革

1942年	9月	有坂学園『前橋服装女学院』創立。初代校長に有坂作太郎が就任する。
1952年	7月	北関東初の簿記会計の専門校として『有坂学園・前橋商業学校』に改称する。
1965年	4月	『有坂学園・前橋高等経理学校』に校名を改称する。
1974年	9月	第2代校長に有坂作太郎の長女である中島芳子が就任する。
1976年	4月	創立35周年を迎え、総合経理の専門学校として歩み出す。
1983年	10月	第3代校長に山中庄太郎(元県出納長)が就任する。
1985年	3月	新校舎完成。群馬の中央・頭脳都市新前橋に移転する。
1986年	4月	産能短大と提携。県下初のダブル・スクール制度を採用する。
1988年	5月	『中央情報経理専門学校』に校名を変更する。
	10月	全国経理学校協会女子ソフトボール関東大会初出場初優勝。
1990年	4月	経理と情報教育を充実させるため本館・2号館・3号館に近代的な設備を完備する。
1991年	7月	産学一体の教育を目的に人事交流連絡会『人材育成フォーラム』を発足する。
1992年	7月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、電卓の部優勝。 簿記の部、珠算の部も上位入賞を果たす。
	9月	創立50周年を迎える。
1997年	4月	情報処理検定にて全国1位の成績に贈られる『広中平祐賞』を受賞する。
1998年	4月	中央情報経理専門学校太田校(太田市)創立。
	7月	中央工学院専門学校(前橋市)創立。 全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、3部門すべて 上位入賞し、全国大会出場を果たす。
1999年	4月	中央高等専門学院(前橋市)創立。
2000年	1月	早稲田コンピュータ専門学校(高崎市)がグループ校に加わる。
2001年	4月	高崎ビューティモード専門学校(高崎市)創立。
2001年	11月	ISO9001を高等教育機関において全国初で認証を受ける。
2002年	9月	創立60周年を迎える。
2003年	4月	中央医療歯科専門学校太田校(太田市)創立。
2004年	4月	中央医療歯科専門学校に校名変更。
2004年	7月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、簿記の部優勝。 電卓の部、珠算の部準優勝。
	9月	全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会全国大会において、簿記の部準優勝。 電卓の部6位。
2005年	4月	群馬法科ビジネス専門学校(前橋市)、高崎ペットワールド専門学校(高崎市)創立。
	12月	全国専門学校ロボット競技会において全国優勝。ハードウェア部門優勝・3位。
2006年	4月	中央工学院専門学校と中央情報経理専門学校のデジタルデザイン科が統合して、 中央工科デザイン専門学校と校名変更。
2006年	7月	全国経理教育協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、 簿記の部、電卓の部準優勝。
	9月	全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部優勝。 電卓の部準優勝。簿記個人の部においても、1位から3位まで入賞。
2007年	9月	全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部2年連続優勝。
	12月	全国専門学校ロボット競技会においてハードウェア部門準優勝。
2009年	3月	中央工科デザイン専門学校(前橋市古市町)移転。
2011年	4月	中央農業グリーン専門学校(前橋市南町)創立。 群馬法科ビジネス専門学校桐生校(桐生市)創立。
2012年	9月	創立70周年を迎える。
2014年	3月	文部科学大臣認定 職業実践専門課程の認定を受ける。
2016年	4月	高崎ペットワールド専門学校(前橋市古市町)移転。 中央動物看護専門学校に校名変更
2017年	4月	中央医療歯科専門学校高崎校(高崎市)創立。
2018年	4月	中央情報経理専門学校高崎校を中央情報大学校に校名変更。 中央農業グリーン専門学校を中央農業大学校に校名変更。
2019年	12月	中央動物看護専門学校が群馬サファリワールドと職業教育連携。
2020年	7月	前橋東洋医学専門学校がグループ校(前橋市)に加わる。
2021年	4月	前橋東洋医学専門学校を中央スポーツ医療専門学校に校名変更。
2022年	3月	中央動物看護専門学校が北軽井沢地域と包括的職業教育連携。
2022年	9月	創立80周年を迎える。第四代理事長に中島慎太郎が就任する。
2024年	2月	全国選抜トリマー選手権大会においてミドル部門で準優勝。

中央動物看護専門学校 教育基本方針

○建学精神

『人と動物の絆』

○教育目標

『動物福祉の精神に立ち動物を慈しむ優しい心を持つ』

・人と動物のより良い関係づくりを目指し人と動物の両者に対して情熱を傾けられる人材

『失敗から学ぶ心と方法を知る』

・試行錯誤を通して、仕事を学ぶ「心」と「方法」を体得できる人材

『スペシャリストに必要な知識と技能を身に付ける』

・動物看護・動物飼育・動物美容の知識とスキルを学び、その専門性を広く応用できる人材

『豊かな人間性とビジネスマナーを兼ね備える』

・社会で活躍するために必要な豊かな人間性と飼い主とのより良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を兼ね備えた人材

○学園標語

『思いやりの心、感謝の心、奉仕の心』

○学科概要

●動物看護学科

・愛玩動物看護師専攻

動物病院などで、獣医師のパートナーとして活躍する動物看護師。その業務は獣医診療や検査・手術の補助、飼い主に対する健康管理指導など数多く、確かな知識と技術、責任感が求められる。本学科では基礎看護学をはじめ動物病院業務を実践的に学習する。

●動物飼育学科

・動物園飼育員専攻

絶滅の危機に瀕している野生動物を守る為の役割を担う動物園やサファリパークで動物の生態を管理する仕事である動物飼育員。飼育のプロによる指導で愛玩動物から野生動物まで幅広い動物種に対応できる知識や技術を磨き、即戦力となるよう実践的に学習する。

○基本方針

本校では、所定の年限の課程を通じて、高度な知識と技術を修得し、社会に貢献できる豊かな人間性を身につけることを最大の目標としている。

社会は、単に言われた通りに仕事ができる人間ではなく、与えられた環境の中で何を試すべきかを考え、その実現の為に自らの意思で行動できる明るく積極的な人間を求めている。このことは、人から教えてもらうのではなく、さまざまな体験を通じて事実をつかむ眼、本質を見抜く力を養い、そして、そこで生ずる問題を自分の問題としてとらえる力を身につけることにより学べるものである。実社会で最も必要としている問題解決能力とは、まさにそのことの実践でもある。

『体験から学ぶ』ことの大切さを理解し、自ら学び、自ら行動することを目指し、学生生活が有意義に送れるよう心がけることを学生に望む。

特に学習活動のみならず学校内外の諸活動、仕事体験など、幅広い「体験」から「学ぶ」ことによって、一人ひとりのアイデンティティを高めていくことを本校の真の狙いとしている。

○具体的方針

『やって・見て・考える』

様々な行事体験から問題解決の実践により「事実の本質」を体得する。また PDCA サイクルを理解し仕事に活かす。

・水族館飼育員専攻

水生動物の生態を学び、水族館で生活する動物の健康を守る水族館飼育員。水生動物はもちろん、それらの動物たちの生育環境を護るために必要な知識や技術を磨く。

・牧場スタッフ専攻

畜産動物の飼育方法を学ぶと同時にアニマルウェルフェアについて理解を深める。動物たちのストレスに配慮した飼育環境や接し方なども学ぶ。観光牧場等でパフォーマンスができるための技術も身につける。

●動物美容学科

・ペット美容トリマー専攻

シャンプーやカット技術、内面からの健康にアプローチをかけるエステやアロマなども学ぶ。お客様へのビジネスマナーも学び、様々な職場で活躍することができる知識、技術を身につける。

各 種 検 定 一 覧

種 目	主 催	試 験 時 期
動物看護分野		
愛玩動物看護師（国家資格）	動物看護師統一認定機構	毎年2月中旬日曜日
動物健康衛生管理検定	全国動物専門学校協会	毎年9月、1月（第3週）
ペット栄養管理士認定試験	日本ペット栄養学会	6月、9月、翌年1月 （2年次10月以降）
ペットBLS検定	日本ペットBLS防災学会	履修後随時
動物飼育分野		
動物飼育管理士	日本動物飼育協会	例年5月、12月実施
愛玩動物飼養管理士	日本愛玩動物協会	11月、翌年2月
ペットフード・ペットマナー検定	ペットフード協会	奇数月
生物分類技能検定	自然環境研究センター	8月1日（金）～9月29日（月）
潜水士（国家資格）	安全衛生技術試験協会	6月、7月、9月、12月、 翌年2月
グリーンセイバー	樹木・環境ネットワーク協会	8月
ビオトープ管理士	日本生態系協会	11月2日（日）
スクーバダイビング	PADI	8月、9月
乗馬ライセンス	全国乗馬倶楽部振興協会	8月
美容分野		
サロントリマー検定	全国動物専門学校協会	筆記：9月、1月 第3週 実技：随時
PEIA ゴールド	ペットエステティック国際協会	履修後
PEIA シルバー	ペットエステティック国際協会	履修後
PEIA ブロンズ	ペットエステティック国際協会	履修後
ビジネス分野		
社会人常識マナー検定	全国経理教育協会	6月、9月、翌年1月
電話応対技能検定	日本電信電話ユーザ協会	毎月第1水曜日

※試験時期は前年度実績に基づいて算出しておりますので、変更になる可能性もあります。

履修科目一覧

動物看護学科			
愛玩動物看護師専攻			
3年次			
科目	前期	後期	貢
生命倫理・動物福祉		○	7
比較動物学	○	○	8
動物薬理学	○	○	9
公衆衛生学	○	○	10
動物内科看護学Ⅲ	○		11
動物臨床看護学各論Ⅱ	○	○	12
動物生活環境学		○	13
動物形態機能学実習		○	14
動物内科看護学実習Ⅲ		○	15
動物外科看護学実習Ⅲ	○		16
動物臨床看護学実習Ⅱ		○	17
動物看護総合実習Ⅲ	○		18
グルーミング実習Ⅲ	○		19
動物飼育管理実習Ⅲ	○	○	20
応用動物看護学実習	○		21
動物介護学		○	22
国試対策		○	23
検定対策Ⅲ	○	○	24
就職実務Ⅲ	○		25

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物看護学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
生命倫理・動物福祉 公衆衛生学 動物生活環境学	空代 俊枝	獣医師免許取得後、県庁職員（獣医公衆衛生関連業務）として36年の実務経験。	7 10 13	30 60 30
比較動物学	小渕 裕子	獣医師免許取得後、県庁職員（家畜保健衛生関連業務）として35年の実務経験。	8	60
動物薬理学 動物外科看護学実習Ⅲ	松本 禎基	獣医師免許取得後、動物病院にて6年の実務経験。	9 16	60 30
動物内科看護学Ⅲ 動物内科看護学実習Ⅲ	岩崎 美香	専門学校卒業後、動物病院にて12年の実務経験。	11 15	30 30
動物臨床看護学各論Ⅱ	田中 義朗	獣医師免許取得後、県庁職員（食肉衛生、動物愛護センター等）として41年の実務経験。	12	60
動物臨床看護学実習Ⅱ 国試対策	小鮎 穂香	専門学校卒業後、動物病院で2年の実務経験。	17 23	30 90
グルーミング実習Ⅲ	赤坂 成美	グルーミングスクール卒業後、ドッグサロンにて7年の実務経験。	19	90
グルーミング実習Ⅲ	田中 里恵	動物病院・ペットショップ・ドッグサロンにて7年間の実務経験。	19	90
グルーミング実習Ⅲ	伊井 由莉香	専門学校を卒業後、専門学校講師を務める。その後、Dog Salon Hyggeを開業。現在もトリマーとして活躍。	19	90
グルーミング実習Ⅲ	青木 恋雪	専門学校を卒業後、ドッグサロン・ペットショップにてトリマーとして10年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	19	90
動物飼育管理実習Ⅲ	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	20	60

講義概要

科目名	生命倫理・動物福祉		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	辻代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	生命倫理・動物福祉を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生命倫理の概念①	生命倫理の考え方、生命倫理と獣医療の関わり
第2回目	生命倫理の概念②	動物に対するさまざまな考え方と影響を与える要因
第3回目	生命倫理の概念③	動物観の歴史的変遷
第4回目	動物福祉の概念①	動物福祉とは、近代・現代の動物愛護運動
第5回目	動物福祉の概念②	動物の権利と動物福祉、日本における動物愛護と世界における動物福祉
第6回目	動物福祉の評価①	動物福祉の評価とは、動物福祉の生理学的指標
第7回目	動物福祉の評価②	動物福祉の行動的指標、課題
第8回目	動物福祉と社会①	動物福祉と社会、法律と動物福祉
第9回目	動物福祉と社会②	経済活動と動物福祉、動物福祉教育、動物保護活動
第10回目	愛玩動物の福祉①	飼育の現状と福祉、適正飼養と動物福祉上の問題
第11回目	愛玩動物の福祉②	繁殖・流通・利用に関する福祉上の問題、飼育放棄
第12回目	産業動物の福祉①	産業動物福祉改善の歴史と定義、飼養の概況と動物福祉の課題
第13回目	産業動物の福祉②	産業動物における福祉向上の問題、国際的福祉基準
第14回目	実験動物の福祉①	実験動物の福祉と動物実験に関する法規制、3Rの原則
第15回目	実験動物の福祉②	環境エンリッチメント、獣医学的ケア、苦痛の評価
第16回目	展示動物の福祉	展示動物の福祉、使役動物の福祉、3Rの原則
第17回目	野生動物の福祉	野生動物の福祉、野生動物の福祉に関する諸問題、対策と課題

科目名	比較動物学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小淵 裕子	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	比較動物学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	産業動物①	牛の歴史、解剖学的・生理学的特性、主要品種
第3～4回目	産業動物②	子牛の管理方法、品種別管理方法、法定伝染病・届出伝染病
第5～6回目	産業動物③	馬の歴史と使用状況、活用法、代表的な品種と解剖生理、疾病
第7～8回目	産業動物④	豚の歴史、解剖学的・生理学的特徴、主要な品種、飼養管理、疾病
第9～10回目	産業動物⑤	羊・山羊の歴史、解剖学的・生理学的特性、主要な品種、飼養管理、疾病
第11～12回目	産業動物⑥	鶏の歴史、解剖学的・生理学的特性、主要な品種、飼養管理、疾病
第13～14回目	産業動物⑦	畜産業
第15～16回目	実験動物①	動物実験の歴史、動物実験の物理的・生物学的因子、栄養学的・微生物学的管理
第17～18回目	実験動物②	動物実験の基本的技術、飼育管理について
第19～20回目	実験動物③	代表的な実験動物の飼育管理、繁殖法、保定法（マウス・ラット・ハムスター）
第21～22回目	実験動物④	代表的な実験動物の飼育管理、繁殖法、保定法（モルモット・ウサギ・サル）
第23～24回目	実験動物⑤	疾患モデルの歴史、医学研究における位置付け、代替法
第25～26回目	野生動物①	野生動物の分類と生物多様性、絶滅危惧種の保全方法・意義
第27～28回目	野生動物②	外来生物の定義、影響、対策、野生動物の病気と事故、野生動物の救護
第29～30回目	展示動物①	意義と動物園の役割
第31～32回目	展示動物②	動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する
第33～34回目	まとめ	まとめ

科目名	動物薬理学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 禎基	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物薬理学についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	薬物の取り扱い	薬理学概論、医薬品の基礎と分類、医薬品の開発
第3～4回目	動物薬理学の基礎①	薬と薬理作用、発現機構、薬の剤形と投与方法
第5～6回目	動物薬理学の基礎②	生体内での薬の動態、全身麻酔薬、局所麻酔薬
第7～8回目	神経系に作用する薬①	神経系の基本的事項、全身麻酔薬、局所麻酔薬
第9～10回目	神経系に作用する薬②	鎮痛薬、骨格筋弛緩薬、鎮静薬、抗痙攣薬
第11～12回目	呼吸器系に作用する薬①	呼吸興奮薬、鎮咳薬
第13～14回目	呼吸器系に作用する薬②	抗喘息薬（気管支拡張薬）
第15～16回目	循環器・泌尿器に作用する薬①	血管拡張薬、心不全治療薬
第17～18回目	循環器・泌尿器に作用する薬②	抗不整脈薬、利尿薬、抗利尿薬
第19～20回目	消化器に作用する薬①	制吐薬と催吐薬、抗潰瘍薬、消化管運動促進・抑制薬
第21～22回目	消化器に作用する薬②	止瀉薬、瀉下薬、肝・脾疾患の治療薬
第23～24回目	オータコイド、 内分泌・代謝系の薬①	オータコイド、抗炎症薬、糖尿病治療薬
第25～26回目	オータコイド、 内分泌・代謝系の薬②	甲状腺機能障害、脂質・骨代謝異常の治療薬
第27～28回目	血液に作用する薬	貧血の発生機序と抗貧血薬、血液凝固阻害薬、止血薬
第29～30回目	免疫系に作用する薬	免疫に影響を受ける薬、ワクチン
第31～32回目	化学療法薬①	抗腫瘍薬、抗菌薬・抗真菌薬
第33～34回目	化学療法薬②	駆虫薬・抗原虫薬、殺虫薬、消毒薬

科目名	公衆衛生学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	辻代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	公衆衛生学についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	公衆衛生の概要	公衆衛生の目的と獣医療の役割・国民衛生・人口統計
第3～4回目	疫学と疾病予防①	疫学・感染症対策について
第5～6回目	疫学と疾病予防②	病原体等に関する安全対策・人獣共通感染症
第7～8回目	疫学と疾病予防③	ウイルス性・細菌性人獣共通感染症
第9～10回目	疫学と疾病予防④	真菌性・寄生虫性人獣共通感染症
第11～12回目	疫学と疾病予防⑤	衛生動物・新興感染症・再興感染症
第13～14回目	疫学と疾病予防⑥	狂犬病予防の重要性
第15～16回目	食品衛生①	食品衛生法
第17～18回目	食品衛生②	食品衛生管理手法
第19～20回目	食品衛生③	食中毒について
第21～22回目	食品衛生④	食品アレルギー・食品表示
第23～24回目	食品衛生⑤	食品安全行政・健康被害防止対策
第25～26回目	環境衛生①	生活環境問題・水環境
第27～28回目	環境衛生②	上下水道・水質汚濁・大気汚染・騒音・臭気
第29～30回目	環境衛生③	廃棄物処理・放射線汚染
第31～32回目	環境衛生④	衛生害虫が媒介する感染症・衛生害虫の防除
第33～34回目	まとめ	まとめ

科目名	動物内科看護学Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断等について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	X線検査とCT/MRIに関わる技術①	X線検査の目的と意義、放射線防護、X線検査の実施方法と体位
第2回目	X線検査とCT/MRIに関わる技術②	フィルムの現像とデジタルX線撮影
第3回目	X線検査とCT/MRIに関わる技術③	CT、MRIについて
第4回目	超音波検査に関わる技術①	超音波検査の目的と実施方法、保定方法
第5回目	超音波検査に関わる技術②	Bモード、Mモード、ドップラー法
第6回目	内視鏡検査に関わる技術①	内視鏡検査の目的と意義
第7回目	内視鏡検査に関わる技術②	内視鏡検査の実施方法、準備事項、スコープの洗浄・消毒方法
第8回目	神経学的検査に関わる技術①	姿勢反応と脊髄反射
第9回目	神経学的検査に関わる技術②	脳神経の検査法、神経学検査の評価記録法
第10回目	神経学的検査に関わる技術③	神経学的検査まとめ
第11回目	眼科検査に関わる技術①	シルマー検査、フルオレセイン試験の方法と意義
第12回目	眼科検査に関わる技術②	眼圧検査、眼底検査の方法と意義
第13回目	皮膚と耳の検査に関する技術①	皮膚事変の観察と記録法
第14回目	皮膚と耳の検査に関する技術②	皮膚掻爬検査、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検
第15回目	皮膚と耳の検査に関する技術③	ウッド灯検査と真菌培養法
第16回目	皮膚と耳の検査に関する技術④	外耳道の検査方法と意義
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学各論Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 義朗	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学各論についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	感覚器疾患①	感覚器疾患とは、感覚器疾患の診察・検査・治療
第3～4回目	感覚器疾患②	代表的な感覚器疾患、感覚器疾患の動物看護
第5～6回目	神経疾患・整形外科疾患①	神経疾患・整形外科疾患とは、神経疾患・整形外科疾患の診察・検査・治療
第7～8回目	神経疾患・整形外科疾患②	代表的な神経疾患、代表的な整形外科疾患
第9～10回目	神経疾患・整形外科疾患③	代表的な整形外科疾患、神経疾患・整形外科疾患の動物看護
第11～12回目	排泄機能障害を伴う疾患①	排泄機能障害を伴う疾患とは、排泄機能障害を伴う疾患の診察・検査・治療
第13～14回目	排泄機能障害を伴う疾患②	排泄の異常を引き起こす代表的な症候・疾患、排便困難を引き起こす代表的な症候・疾患
第15～16回目	排泄機能障害を伴う疾患③	排尿の異常と排便困難を起こす疾患、排泄機能障害を伴う疾患の動物看護
第17～18回目	生殖器障害①	生殖器疾患とは、生殖器疾患の診察・検査・治療
第19～20回目	生殖器障害②	代表的な生殖器疾患、生殖器疾患の動物看護
第21～22回目	救急疾患①	救急疾患とは、救急疾患に関する基礎知識
第23～24回目	救急疾患②	代表的な救急疾患
第25～26回目	救急疾患③	緊急時の動物看護
第27～28回目	担がん動物の看護①	腫瘍疾患とは、がんの診断に関する基礎、がんの診断のための検査
第29～30回目	担がん動物の看護②	腫瘍疾患に対する治療、がん化学療法
第31～32回目	担がん動物の看護③	腫瘍疾患の栄養管理、がん性疼痛、担がん動物への動物看護
第33～34回目	まとめ	動物臨床看護学各論のまとめ

科目名	動物生活環境学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	杵代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物の行動様式を理解した上で、各種施設での整備、管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去する為の方法や飼育マナーを学び、人とペットの共生のための生活環境のあり方を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の生活環境を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻（エデュワードプレス）		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	飼養環境整備①	犬と猫の飼養環境整備の必要性や方法
第2回目	飼養環境整備②	ペット共生住宅の現状、環境整備・管理方法
第3回目	ペットツーリズム関連施設、 ドッグラン①	ペットツーリズムの現状と実施方法
第4回目	ペットツーリズム関連施設、 ドッグラン②	ペット同伴宿泊施設、ドッグランの環境整備と管理、 ペット関連イベント活動
第5回目	保護収容施設①	動物愛護管理センター等の役割（動物愛護の変遷と啓発）
第6回目	保護収容施設②	動物愛護管理センター等の役割（飼養管理と譲渡）
第7回目	保護収容施設③	災害時のシェルターの役割、シェルターメディスン
第8回目	ペットへの教育・訓練施設①	ペットの飼育に関する課題、飼い主教育における愛玩動物看護師の役割
第9回目	ペットへの教育・訓練施設②	社会化トレーニングの基礎、教育施設の種類
第10回目	動物介在教育施設①	学校飼育動物等の法的背景
第11回目	動物介在教育施設②	学校飼育動物等の施設の環境整備、施設管理
第12回目	飼育のマナー・事故等の リスクへの対応①	飼育マナーの必要性や目的
第13回目	飼育のマナー・事故等の リスクへの対応②	飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違い
第14回目	飼育のマナー・事故等の リスクへの対応③	愛玩動物の種類別飼育マナー
第15回目	飼育のマナー・事故等の リスクへの対応④	ペット保険の概要
第16回目	飼育のマナー・事故等の リスクへの対応⑤	事故防止・リスク対策
第17回目	まとめ	課題問題、総まとめ

科目名	動物形態機能学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 里海	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物形態機能に関する実習を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	運動器①	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する
第2回目	運動器②	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する
第3回目	運動器③	代表的な関節の名称と構造、機能について理解する
第4回目	運動器④	代表的な関節の名称と構造、機能について理解する
第5回目	運動器⑤	代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する
第6回目	運動器⑥	代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する
第7回目	内臓器官①	模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する
第8回目	内臓器官②	模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する
第9回目	内臓器官③	生殖器の雌雄差について理解する
第10回目	内臓器官④	生殖器の雌雄差について理解する
第11回目	顕微鏡の取扱い①	顕微鏡各部位の名称、鏡検条件について理解する
第12回目	顕微鏡の取扱い②	顕微鏡の適切な管理法について修得する
第13回目	顕微鏡の取扱い③	顕微鏡の適切な管理法について修得する
第14回目	組織像の観察①	主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する
第15回目	組織像の観察②	主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する
第16回目	組織像の観察③	組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する
第17回目	組織像の観察④	組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する

科目名	動物内科看護学実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	診察補助業務①	犬の保定、聴診器や体温計の扱い
第2回目	診察補助業務②	犬の保定、注射器の扱い
第3回目	診察補助業務③	犬の保定、注射器の扱い
第4回目	診察補助業務④	猫の保定、採血手順
第5回目	診察補助業務⑤	猫の保定、採血手順
第6回目	診察補助業務⑥	薬剤の取扱い
第7回目	診察補助業務⑦	経口投与・注射の手順
第8回目	診察補助業務⑧	経口投与・注射の手順
第9回目	診察補助業務⑨	輸液ポンプ、シリンジポンプ
第10回目	診察補助業務⑩	輸液ポンプ、シリンジポンプ
第11回目	生体検査①	心電図検査を実施し、結果を記録
第12回目	生体検査②	X線撮影のための基本的な保定
第13回目	生体検査③	超音波検査のための基本的な保定
第14回目	生体検査④	神経学的検査の所見を記録
第15回目	生体検査⑤	眼科検査（シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など）の補助
第16回目	生体検査⑥	皮膚検査（掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助
第17回目	生体検査⑦	皮膚検査（掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など）の補助

科目名	動物外科看護学実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 禎基	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、繰り返し実践することで理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	術前準備①	手術器具の準備、滅菌
第2回目	術前準備②	手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌
第3回目	術前準備③	手術に必要な機器、器械台の準備
第4回目	術前準備④	手術台への動物の固定、術野の消毒
第5回目	術前準備⑤	手洗い、手術衣や手袋の装着
第6回目	術中補助①	麻酔器の各部名称や使用法
第7回目	術中補助②	モニター機器（心電図、血圧計など）の接続
第8回目	術中補助③	麻酔記録の作成
第9回目	術中補助④	直接補助（器械の受渡しなど）
第10回目	術中補助⑤	間接補助（无影灯、保温マットの操作など）
第11回目	術中補助⑥	歯科器具の取扱い、歯科処置（歯石除去など）の補助
第12回目	術後管理①	術後の創傷管理
第13回目	術後管理②	動物への包帯（粘着性、自着性など）の装着
第14回目	術後管理③	抜糸補助
第15回目	救命救急①	必要な機材、薬剤の準備
第16回目	救命救急②	気管挿管補助、心肺蘇生
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程	動物看護過程の復習
第2回目	経過に基づく動物看護①	ライフステージ別の動物看護
第3回目	経過に基づく動物看護②	ライフステージ別の動物看護
第4回目	経過に基づく動物看護③	急性期の動物看護
第5回目	経過に基づく動物看護④	回復期の動物看護
第6回目	経過に基づく動物看護⑤	慢性期の動物看護
第7回目	経過に基づく動物看護⑥	終末期の動物看護
第8回目	経過に基づく動物看護⑦	終末期の動物看護(褥瘡、体位変換、清拭)
第9回目	輸液管理①	輸液管理の為の基礎知識、輸液に必要な器具機材
第10回目	輸液管理②	輸液に必要な器具機材
第11回目	疼痛管理	疼痛とは、痛みの評価
第12回目	栄養管理	非経腸栄養法、経腸栄養法、流動食
第13回目	ターミナルケアとは	ターミナルケアの目的・意義、事例を用いたターミナルケアの実践
第14回目	動物の看取り	入院動物・在宅療養動物の死・飼い主への対応
第15回目	エンゼルケア①	エンゼルケアの目的・意義・方法・実践
第16回目	エンゼルケア②	エンゼルケアの目的・意義・方法・実践
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物看護総合実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	小鮒 穂香（実習先）	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	今までの学習の成果を発揮し、内定を頂く。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物病院）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	90時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場での愛玩動物看護師としての役割を理解し、自身の目標とする愛玩動物看護師を目指せる先に内定を頂く。

1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

2. 実習（就職実習）

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
- ・保定補助
- ・手術助手
- ・調剤補助
- ・各種検査
- など

3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状
- ・実習を通して得た課題の確認

科目名	グルーミング実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 田中 里恵 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～第3回目	グルーミング実習①	実習犬でのシャンプー、カット実習
第4～第6回目	グルーミング実習②	実習犬でのシャンプー、カット実習
第7～第9回目	グルーミング実習③	実習犬でのシャンプー、カット実習
第10～第12回目	グルーミング実習④	実習犬でのシャンプー、カット実習
第13～第15回目	グルーミング実習⑤	実習犬でのシャンプー、カット実習
第16～第18回目	グルーミング実習⑥	実習犬でのシャンプー、カット実習
第19～第21回目	グルーミング実習⑦	実習犬でのシャンプー、カット実習
第22～第24回目	グルーミング実習⑧	実習犬でのシャンプー、カット実習
第25～第27回目	グルーミング実習⑨	実習犬でのシャンプー、カット実習
第28～第30回目	グルーミング実習⑩	実習犬でのシャンプー、カット実習
第31～第33回目	グルーミング実習⑪	実習犬でのシャンプー、カット実習
第34～第36回目	グルーミング実習⑫	実習犬でのシャンプー、カット実習
第37～第39回目	グルーミング実習⑬	実習犬でのシャンプー、カット実習
第40～第42回目	グルーミング実習⑭	実習犬でのシャンプー、カット実習
第43～第45回目	グルーミング実習⑮	実習犬でのシャンプー、カット実習

科目名	動物飼育管理実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物飼育実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～第2回目	飼育実習①	飼育環境を整える
第3～第4回目	飼育実習②	飼育環境を整える
第5～第6回目	飼育実習③	飼育環境を整える
第7～第8回目	飼育実習④	飼育環境を整える
第9～第10回目	飼育実習⑤	飼育環境を整える
第11～第12回目	飼育実習⑥	指導力を身につける
第13～第14回目	飼育実習⑦	指導力を身につける
第15～第16回目	飼育実習⑧	指導力を身につける
第17～第18回目	飼育実習⑨	指導力を身につける
第19～第20回目	飼育実習⑩	指導力を身につける
第21～第22回目	飼育実習⑪	動物種別の健康管理
第23～第24回目	飼育実習⑫	動物種別の健康管理
第25～第26回目	飼育実習⑬	動物種別の健康管理
第27～第28回目	飼育実習⑭	飼育管理実習の現状を把握し、解決策を探す
第29～第30回目	飼育実習⑮	実践する



科目名	応用動物看護学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	小鮎 穂香(実習先)	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物病院の繁忙期を体験することにより、就職後をイメージし自分に足りない知識・技術を高める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物病院）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	30時間習得しなければならない。		

授 業 計 画 内 容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

1. 実習準備

- ・ 事前訪問予約
- ・ 持ち物・実習の内容等確認

2. 実習（実践実習）

- ・ 諸注意事項確認
- ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価）
- ・ フィラリア検査
- ・ フィラリア予防薬の準備
- ・ 狂犬病予防注射
- など

3. 実習後指導

- ・ 実習日誌まとめ提出
- ・ お礼状
- ・ 実習を通して得た課題の確認

科目名	動物介護学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	近年飼育されている犬猫の間にも高齢化が進み、動物にも介護が必要な時代になってきている。介護の知識・技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物介護の実践力を身につけ、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻（エデュワードプレス） 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎知識①	高齢期とは
第2回目	基礎知識②	高齢期の運動
第3回目	基礎知識③	高齢期の運動
第4回目	基礎知識④	高齢期の食事
第5回目	基礎知識⑤	高齢期の食事
第6回目	場面に合わせた介護方法①	環境整備
第7回目	場面に合わせた介護方法②	歩行
第8回目	場面に合わせた介護方法③	歩行
第9回目	場面に合わせた介護方法④	排泄
第10回目	場面に合わせた介護方法⑤	排泄
第11回目	場面に合わせた介護方法⑥	食事
第12回目	場面に合わせた介護方法⑦	食事
第13回目	場面に合わせた介護方法⑧	入浴
第14回目	場面に合わせた介護方法⑨	高齢期に起こりやすい病気
第15回目	場面に合わせた介護方法⑩	高齢期に起こりやすい病気
第16回目	場面に合わせた介護方法⑪	投薬
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	国試対策		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	講義・演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	愛玩動物国家資格に向けて、弱点の克服、さらなる内容の理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個々の弱点に応じた対策を講じて、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1～10巻（エデュワードプレス） 国家資格対策問題集		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果と授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～3回目	現状把握	過去問題を実施し、自身の弱点や得意分野を見つける
第4～6回目	課題克服①	自らの弱点を克服するため、個々の課題を分析
第7～9回目	課題克服②	分析した課題を克服するための手法を実践
第10～12回目	全体講習①	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第13～15回目	全体講習②	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第16～18回目	全体講習③	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第19～21回目	現状把握①	過去問題を実施し、自身の成長を確認
第22～24回目	現状把握②	過去問題を実施し、自身の成長を確認
第25～27回目	過去問題①	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第28～30回目	過去問題②	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第31～33回目	過去問題③	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第34～36回目	試験対策①	1人ひとりに合った個別指導を実施
第37～39回目	試験対策②	1人ひとりに合った個別指導を実施
第40～42回目	試験対策③	1人ひとりに合った個別指導を実施
第43～45回目	試験対策④	1人ひとりに合った個別指導を実施

科目名	検定対策Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物看護師統一認定試験の出題傾向を認識し、さまざまな過去問題を繰り返し解くことで、各分野の理解度を上げる。また、独自のまとめノートを作成し、苦手分野の克服を図り、正答率の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	各種検定の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	授業態度等により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1～第2回目	試験対策①～②	サロントリマー検定3級取得に向けた動き
第3～第4回目	試験対策③～④	技術的な動きの再確認と、時間配分について考える
第5～第6回目	試験対策⑤～⑥	骨格、体の部位、ハサミの構造について勉強する
第7～第8回目	試験対策⑦～⑧	犬種別のトリミング方法について勉強する
第9～第10回目	試験対策⑨～⑩	総まとめ
第11～第12回目	試験対策⑪～⑫	総まとめ
第13～第14回目	試験対策⑬～⑭	動物衛生管理士アドバンス取得に向けた動き
第15～第16回目	試験対策⑮～⑯	繰り返して勉強する
第17～第18回目	試験対策⑰～⑱	繰り返して勉強する
第19～第20回目	試験対策⑲～⑳	国家試験に向けた動き
第21～第22回目	試験対策㉑～㉒	苦手分野の再確認と復習
第23～第24回目	試験対策㉓～㉔	模擬試験
第25～第26回目	試験対策㉕～㉖	時間を意識した勉強
第27～第28回目	試験対策㉗～㉘	実際の試験環境を模した模擬試験の実施
第29～第30回目	試験対策㉙～㉚	各自必要科目について勉強する

科目名	就職実務Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	就職対策を実践し、就職内定を円滑にいただけるように準備をする		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職内定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	企業研究①	就職希望の企業を研究
第2回目	企業研究②	就職希望の企業を研究
第3回目	企業研究③	就職希望の企業を研究
第4回目	履歴書①	履歴書の内容確認
第5回目	履歴書②	履歴書の内容確認
第6回目	履歴書③	履歴書の内容確認
第7回目	面接練習①	模擬面接
第8回目	面接練習②	模擬面接
第9回目	面接練習③	模擬面接
第10回目	就職活動①	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第11回目	就職活動②	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第12回目	就職活動③	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第13回目	就職活動④	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第14回目	就職活動⑤	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第15回目	就職活動⑥	就職活動を実施（面接、内定届け等）